事務事業及び予算の執行実績（令和7年度分）

（一部、令和8年度分を含む）

静 岡 県 立 東 部 特 別 支 援 学 校

目　　次

□□□□□□	事務事業の概要（本　　校）・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（伊 東 分 校）・・・・・・・・・・・・・・・	18
	（伊豆高原分校）・・・・・・・・・・・・・・・	30
□□□□□□	事業の根拠法令調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
□□□□□□	学校施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44
□□□□□□	在籍生徒調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
□□□□□□	入学志願者及び入学者数調・・・・・・・・・・・・・・・・	54
□□□□□□	卒業生の動向調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
□□□□□□	生徒の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58
□□□□□□	特別支援学校における生産物売払調・・・・・・・・・・・・	62
□□□□□□	預金調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
□□□□□□	材料品受払調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表・・・・・・・・・・・	65
□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表・・・・・・・・・・・	65
□□□□□□	委託料に関する調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
□□□□□□	負担金支出調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	74
□□□□□□	建築工事調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	75
□□□□□□	公有財産調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
□□□□□□	借地借家等調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
□□□□□□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調・・・・	78
□□□□□□	行政財産貸付・使用許可調・・・・・・・・・・・・・・・・	79
□□□□□□	普通財産・借受財産等貸付調・・・・・・・・・・・・・・・	79
□□□□□□	職員公舎管理状況調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79
□□□□□□	主要備品調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80

□□□□□□

事務事業の概要（本校）

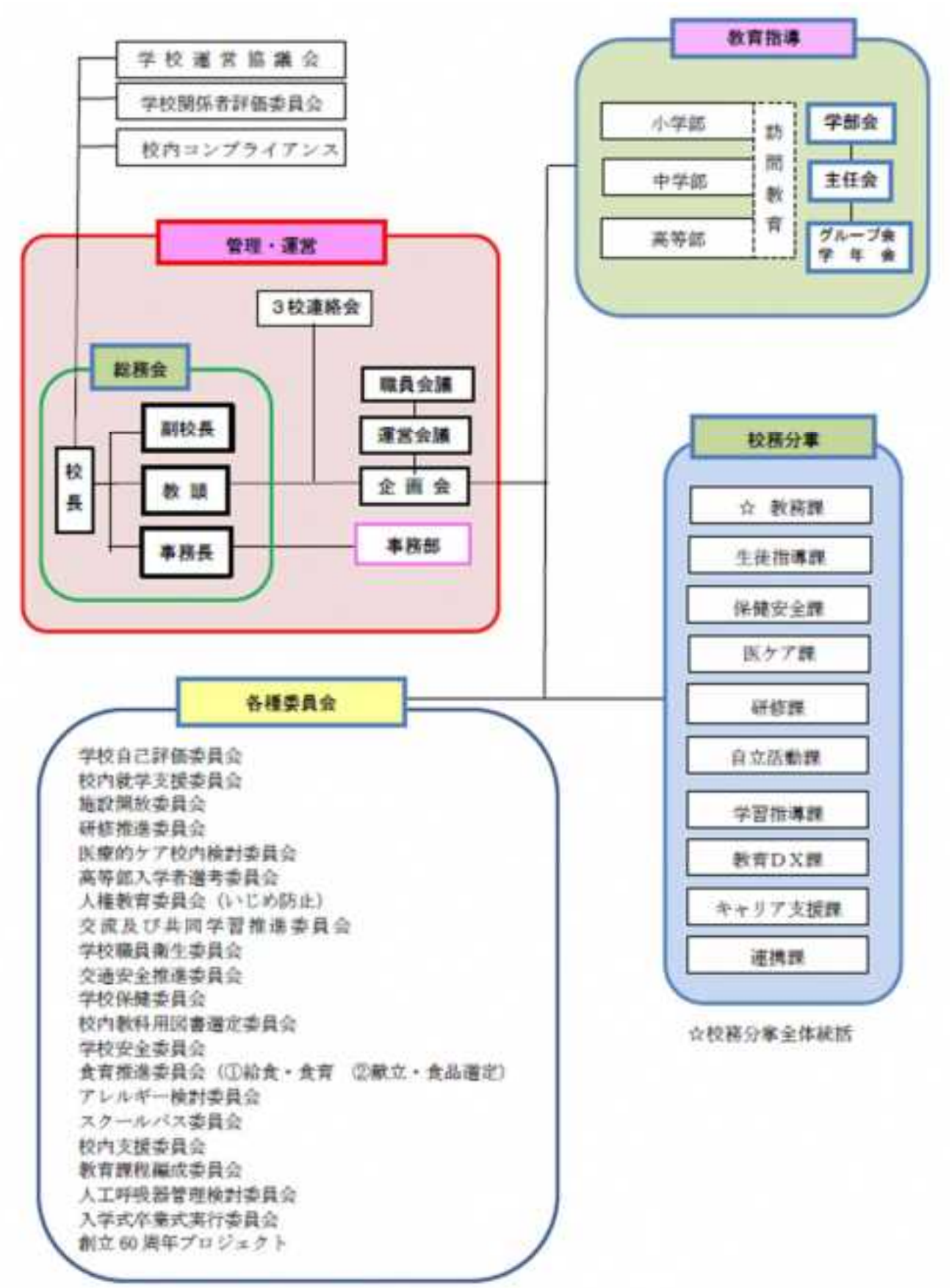
1 概況

(1) 学校の沿革

昭和 40. 9. 1　肢体不自由児施設伊豆医療福祉センター（伊豆療護園）の開設に伴い、韮山小、中学校の分教場として教育開始
昭和 41. 4. 1　静岡県立静岡養護学校東部分校として発足
昭和 41. 4.11　伊豆療護園の施設を借用して開校式、入学式を挙行
昭和 41. 5.30　プレハブ仮校舎完成
昭和 43. 3. 1　第 1 次学校敷地買収（5,044 ㎡）
昭和 43. 4. 1　通学生の入学許可
昭和 43. 5. 4　校舎起工式を挙行
昭和 43. 7.13　第 2 次学校敷地買収(1,169 ㎡)
昭和 43.10.31　校舎第 1 期工事完成(延 648 ㎡)
昭和 44. 3.25　校舎第２期工事完成(延 945.31 ㎡)　韮山町寺家 235 番地に全面移転
昭和 44.12.12　校舎第３期工事完成(延 743.26 ㎡)
昭和 45. 2. 3　校舎落成式を挙行
昭和 46.10. 5　スクールバス運行開始
昭和 48. 3.31　第３次学校敷地買収(1,021 ㎡)
昭和 49. 4. 1　校名を静岡県立東部養護学校に変更、独立校となる。
昭和 49.11.22　独立記念式を挙行
昭和 51. 3.25　校舎第 2 棟、第 3 棟増築工事完成(延 336 ㎡)
昭和 54. 3. 9　第 4 棟校舎工事完成(延 1,226.3 ㎡) 旧棟一部改造
昭和 54. 4. 1　養護学校教育義務制実施に伴い、川奈分校、伊豆つくし分教室、駿豆分教室が移管されるとともに、伊豆半島全域の在宅児に対する訪問教育を担当
昭和 54. 5.29　校舎増改築完成
昭和 56. 3.30　第４次学校敷地買収(2,058 ㎡)
昭和 57. 2. 4　運動場造成工事完成
昭和 57. 3.20　校長住宅完成(延 126.42 ㎡)
昭和 58. 3.31　グリーンバンク緑化事業実施
昭和 58. 4. 1　高等部設置（定員 10 名）
昭和 59. 2.18　高等部校舎完成（延 563.50 ㎡）
昭和 59. 4. 1　高等部定員増（15 名）
昭和 60. 3.11　体育館完成（延 603.55 ㎡）
昭和 61.11.16　創立 20 周年記念行事を挙行
昭和 62. 3.31　第 1 棟、第 2 棟、第 3 棟のトイレ改修工事完成
昭和 62. 4 .8　多機能スクールバス運行開始
昭和 63. 9.14　第 1 棟外装工事、音楽室内装工事完成
平成 元. 8.31　第 2 棟、第 3 棟外装工事完成
平成 3. 1.16　第５次学校敷地買収(1,021 ㎡)
平成 3. 3.20　運動場造成工事完成
平成 4.12.18　配膳室完成(延 62.88 ㎡)
平成 5. 1. 8　学校給食開始
平成 7. 4. 1　多機能スクールバス更新
平成 8.10.31　創立 30 周年記念行事を挙行
平成 11. 3.31　駿豆分教室　休校
平成 11. 4. 1　伊東分校　開校
平成 13.11.30　駿豆分教室廃止
平成 14. 4. 1　伊東分校高等部設置
平成 18. 3.31　伊豆高原分校開設に伴い伊東分校高等部は廃止
平成 18. 4. 1　伊豆高原分校　開校
平成 18.11.11　創立 40 周年記念誌発行
平成 20. 3.31　伊豆つくし分教室廃止
平成 20. 4. 1　静岡県立東部特別支援学校と校名変更　伊豆下田分校開校
平成 23. 4. 1　伊豆松崎分校　開校
平成 28.11.25　創立 50 周年記念行事を挙行
平成 30. 9. 1　新校舎移転
平成 30.11.13　新校舎落成式
令和 ３．３.31　川奈分校廃止
令和 ３．４．１　伊豆下田分校、伊豆松崎分校　伊豆の国特別支援学校に変更

令和　５．４．１　伊豆高原分校新校舎移転
令和　５．９．１　伊東分校新校舎移転

（２）　学校運営組織図


学校運営協議会
学校関係者評価委員会
校内コンプライアンス
教育指導
小学部
中学部
高等部
訪問教育
学部会
主任会
グループ会
学年会
管理・運営
3校連絡会
総務会
副校長
教頭
事務長
校長
職員会議
運営会議
企画会
事務部
校務分掌
☆ 教務課
生徒指導課
保健安全課
医ケア課
研修課
自立活動課
学習指導課
教育DX課
キャリア支援課
連携課
☆校務分掌全体統括
各種委員会
学校自己評価委員会
校内就学支援委員会
施設開放委員会
研修推進委員会
医療的ケア校内検討委員会
高等部入学者選考委員会
人権教育委員会（いじめ防止）
交流及び共同学習推進委員会
学校職員衛生委員会
交通安全推進委員会
学校保健委員会
校内教科用図書選定委員会
学校安全委員会
食育推進委員会（①給食・食育　②献立・食品選定）
アレルギー検討委員会
スクールバス委員会
校内支援委員会
教育課程編成委員会
人工呼吸器管理検討委員会
入学式卒業式実行委員会
創立60周年プロジェクト

2　目指す学校像

（1）教育目標　「元気に　たくましく　豊かな人」

【体】生き生きと活動する力
【知】確かな学力、たくましく生きる力
【徳】思いやり、感動する豊かな心

教育目標の具現化に向けて、①安心と信頼、②学ぶ喜び、③地域貢献、④働きがい、を学校づくりの４つの視点に掲げ学校づくりを進める。

（2）　目標具現化の柱

ア〈守る〉安全で安心な教育環境
（ア）　安全な学校環境の整備
（イ）　人権を尊重する教育
イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力
（ア）　学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上
ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携
（ア）　地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進・センター的機能の充実
エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場
（ア）　教職員の資質向上
（イ）　業務改善の推進

3　監査対象機関の年度別学校経営の取組等

（1）令和７年度の取組目標への評価及び成果と課題

本年度の取組（**重点目標はゴシック体で記載**）

（ア）〈守る〉安全で安心な教育環境

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	安全な学校環境の整備				
ア	**命を守る緊急時対応力の向上**	・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100%	・緊急体制訓練他　４回実施した。 ・注入時発災訓練を 1 回実施した。 ・安全点検を月に１回実施した。 ・日常的に安全な環境づくりを行った。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 保護者アンケート 94.8% ○訓練や講習会等については計画通り実施することができた。緊急対応や日頃の安全に関する知識や意識を高めることができた。 ●来年度も今年度並みの計画を考えていきたい。 ●ヒヤリハットの報告が減ったため、報告方法をファイルに記入する方法に戻すかどうか検討する。また、ヒヤリハットは、インシデントや事故防止につながる重要なものであることを分掌課員中心に周知して行く。

		・適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員100%	・人工呼吸器、緊急時の対応についてのグループワーク、呼吸介助と姿勢についての研修を実施した。 ・指導医訪問研修　3回実施した。 ・ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討を行った。	A	教職員アンケート 97.4% ○訓練や指導訪問研修を計画通り実施することができた。医ケアに初めて携わる人にも分かりやすい内容や直ぐに実践に活かせる内容に工夫し実施することができた。 ●注入時発災訓練は１回に減らしたが、多くの教員に取り組んで欲しいため来年は２回実施する。 ○インシデントについては、速やかな情報共有を行ったり、対策について検討したりすることができた。
イ	人権を尊重する教育				
	子どもの人権を尊重した教育の推進	・安心できる学校生活の中で、友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができたと答える児童生徒90%以上	・各学部学年で月のテーマに沿ってミーティングを行った。結果を掲示板で共有した。 ・人権教育について、いじめ防止委員会にて、主事・主任に向けて伝達を行った。 ・夏季休業中に外部講師による人権研修を行った。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100% ○児童生徒アンケートでは、安心できる学校生活と友達を大切にした生活の２つの項目で、「できた」が 100%の評価であった。毎月取り組んでいる教職員人権ミーティングで日頃の行動を振り返り、共有したことが児童生徒の安心や他者を認める気持ちにつながっているのではないかと考える。今後も続けていきたい。 ●一方で、教職員アンケートでは、生活年齢に合わない関わりや「さん」付けが行われていない様子が見られているという声が挙がっている。人権ミーティングで検討項目に挙げている内容について、まだ不十分な点があったことはしっかりと反省をしたい。 ●来年度の人権ミーティングでは、生活年齢に合った関わりや「さん」づけについて重点的に振り返りを行うようにしたい。また、夏季人権研修で扱う内容についても上記の反省に沿った内容で計画し、より教職員が意識できるようにしたい。

（イ）〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上				
ア	**自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実**	・自分の将来の生活や夢について考えたり、進路について知ったりすることができたと答える児童生徒 90%以上	・キャリア発達に関する学習会を全体で1回(6月)、学部で1回（9月か 10月)、職員事業所見学を1回（8月）実施した。 ・キャリア発達に関する授業実践の紹介を各学部で1回以上実施した。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 90.8% 保護者アンケート 98.3% ○特に中学部・高等部において、生徒の実態に合わせて進路指導が実施できた。 ○学部ごとの学習会では、各学部の教職員から聞き取ったテーマで実施し、ニーズに沿った情報提供・共有ができた。全学部に課長が参加することで、学校全体のキャリア教育の考えを合わせて伝えることができた。 ●キャリア教育の手引きの見直しや学習会、掲示板などを通じて各学部のキャリア教育やキャリアパスポートの抑えを確認できるようにしたい。
	専門性をいかした授業の充実	・個別の指導計画を授業に活用できたと答える教員 100%	・個別の指導計画の活用に関する研修を2回実施した。（4月、夏季休業中）	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 97.4% 保護者アンケート 100% ○どの学部も個別の目標を単元ごとに具体化し、授業の中で目標を意識した学習に取り組むことができた。特に中学部では、単元ごとに学部全体で振り返る時間を設け、PDCA を生かした取組ができた。 ●次年度は、県の統一書式や生成 AI の活用など新しい取り組みが導入されるため、教員間で共通理解を深めながら、より効果的に活用できるよう研修を進めていきたい。
		・「できた、分かったなど喜びのある学びができた」と答える児童生徒 90%以上	・自身が指導上必要とする専門性向上に向けた職員同士の学び合いを実施した。（授業を通したテーマ検証：通年、研修報告：8月・3月）	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100% ○各職員自身がニーズを感じる研修に取り組み専門性をより高められたこと、またキーワードに掲げ還元に至ることを目指して繰り返しグ

					ループを越えた共有を図ってきたことで、児童生徒の学びの支えにつなげられたと捉えている。今後も専門性チェックシートの項目などから自身のニーズを把握し、個々の研修ニーズは学校の課題でもあるという捉えの下、よりよい集団形成や進め方などの方法を追求しながら児童生徒の学びを支える研修を進めていきたい。
		・児童生徒の実態に合った目標や活動内容、支援を設定することができた教員80%以上 ・	・流れ図研修会を３回実施した。先生方の意見を取り入れ、「つながりタイム」の改定を実施した。 ・月１回程度、専門性を高めるための情報提供を掲示版にて実施した。 ・自立活動の指導について専門家から指導を受ける機会を設けた。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100% ○「つながりタイム」を全児童生徒に対して実施することができた。 ●「つながりタイム」への共通理解をより深められるように必要に応じて改定していきたい。 ○掲示板を通して専門性を高めるための情報提供を行うことができた。 ●全体が求めている情報を把握した上で、情報発信をしていきたい。 ○PT 等の巡回指導や摂食指導において外部専門家から専門的な指導を受けることで、自立活動の指導にいかすことができた。
		体育や音楽、図工美術等の授業に楽しく取り組むことができた児童生徒 90%以上	・体育、音楽、図工・美術の授業実践と教材教具の情報を掲示板に掲載（７・10 月） ・行事を充実させるための取り組み 【学発】 より実態に合わせたやり方に変更した。 【プール】 小・全学年実施に変更した。 【コンサート】 子どもの実態に合ったプログラム編成とした。	A	児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% ○授業を土台に創り上げる各学部の文化的行事、体育的行事を生徒の実態に合った形にし、児童生徒への働きかけや支援を工夫して充実させることができた。 ○児童生徒が体育や芸術に関心がもてるように実態を把握したり、アンケート結果を大切にしたりしながら、行事の企画や教材の紹介をしていく。 ●プールの実施判断が難しい時があったため、判断基準を明確にしていく。

		・授業内で ICT 活用 1 回以上行ったと答える教員 100%	・DX だよりを毎月 1 回以上更新した。(生成 AI、機器、YouTube の紹介など) ・学部プチ学習会を実施した。 ・夏季休業中に ICT 研修を実施した。 (Google ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ、ipad の活用ほか)	A	教職員アンケート 98.7% ○月 1 回以上の発行をすることができ、生成 AI（イラストの出力など）の活用や機器について興味を持ち活用する教員が増えた。 ●各学部でプチ学習会を行っていたが、他学部のプチ学習会についても参観できるようにして幅広く情報を共有できる環境にしていく。

（ウ）〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	センター的機能の充実				
ア	**児童生徒の学びと生活を支える連携の充実**	・ケース会議、校内支援委員会、幼児教室、見学会等を実施したことにより関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員 80%以上	学校、保護者、関係機関と連携するための会議や委員会等を以下の通り実施した。 ①学校見学会１回 ②幼児教室２回 ③教育相談 14 件 ④関連機関とのケース会議・情報共有 17 件 ⑤校内支援委員会２件 ⑥伊豆医療福祉センター連絡会 月１回	A	教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 96.4% ○放課後等デイサービス及び相談支援事業所を対象に学校見学会を行った。放デイ引き渡し時の新しい駐車方法を周知し、本校の教育活動についても理解を深めてもらうことができた。 ○学期ごとに校内支援リストを作成・確認し、必要な児童生徒に対して校内支援委員会を開催することができた。 ○必要に応じて関連機関と連携し、情報共有やケース会議を行うことができた。 ●今後も児童生徒および保護者の支援ニーズを把握し、関連機関と適切に連携していきたい。

（エ）〈高める〉教職員が互いに支えあう職場づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	教職員の資質向上				
ア	**学び続ける教職員**	・授業や行事を参観し、「参考になった」と答える教職員 80%以上	・各学部の授業参観を促した。 ・学部間交流を実施した。 ・各学部・学年行事等への参観を呼びかけた。 ・グループ研修会の案内をした。	A	教職員アンケート 96.1% ○約９割の教職員が、学部主事からのお知らせや学部間交流によって、他学年や他学部を参観（参加）する機会が増え、指導の参考になったと答えている。他学年、他学部の授業参観への意識が高まり誰でも行きやすい雰囲気と

					なり、指導の刺激になったり、参考になったりしている。 ●学年や学部において人を交換する形が、空き時間に行くよりも行きやすい。学部間交流については、時期が遅くなったことや担当する部署が不明瞭など、来年度に向けて整える必要がある。運営会議で担当部署を決め、早い時期から取り組めるようにしたい。
イ	業務改善の推進				
	働きやすい職場環境の構築	・事務職員が校務運営に 参画して「教員の業務 負担が軽減に繋がった」と答える教員 80%以上	・分掌に参画した。(DX・生徒指導課) ・放課後等デイサービスの送迎誘導の削減をした。 ・高等部の給食配膳補助に加わった。 ・学校ホームページの更新を定期的に実施した。	A	教員アンケート 97.4% ○令和８年度から実施する総務事務集中化を先行する形で実施したところ、高評価を得られた。次年度以降も継続し、併せて学年会計を教員と協働で取り組んで行きたいと考えている。 ○ホームページは保護者及び学校運営協議会から「授業や学校行事などの様子が分からない。」といった声が上がり始めた。引き続き分かりやすい発信を心掛けたい。 ●事務集中化後の事務職員定数減が近い将来想定されるため、先行して取り組んだ業務や学年会計に影響が生じる可能性がある。その時は可能な範囲で対応することになる。

（２） 令和８年度の取組目標・達成方法・成果目標

（ア）〈守る〉安全で安心な教育環境

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	**安全な学校環境の整備**			
	児童生徒の命を守る危機管理力の向上と安全教育の充実	・緊急時に備える実践的な訓練 緊急体制訓練等 年４回 注入時発災訓練 年２回 ・日常的な安全な環境づくり 安全点検の実施 月１回 ヒヤリハット･インシデントの速やかな情報共有と再発防止策の検討・実施	・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒 100% ・安全に支援するために適切な判断と行動ができたと答える教職員 100%	保健安全課 医ケア課

イ	人権を尊重する教育			
	児童生徒と教職員が自他の個性を尊重し認め合う人権教育の推進	・教職員の人権意識の向上 **ほほえ**ミーティング月１回 人権教育の伝達・共有年２回 外部講師による全体人権研修 年１回	・人権に配慮した関わりの中で、自分や仲間の良さに気づいたと答える児童生徒、教職員 90%以上	生徒指導課

（イ）〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	**学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上**			
	自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実	・キャリア教育の認識の共有 全体学習会　年１回 各学部学習会　各学部年１回 ・キャリア発達に関する授業実践の紹介　各学部１回以上	・自分の将来の生活や夢、進路、今取り組むことについて考えることができた児童生徒 90%以上	キャリア支援課
	児童生徒一人一人が資質・能力を身に付けるための専門性をいかした授業の充実	・統一様式について教員間の共通理解が図れるよう、提示方法を工夫するとともに、活用に向けた研修を実施する。 （職員会議・夏季休業中・随時）	・統一様式（個別の指導計画・年間指導計画）の理解を深め児童生徒の実態に即した個別の指導計画を作成できる教員 80%以上	教務課
	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上			
	児童生徒一人一人が資質・能力を身に付けるための専門性をいかした授業の充実	・自身が指導上必要とする専門性の向上に向けた職員同士の学び合いの設定（授業を通したテーマ検証を通年、研修報告などの共有機会を年３回以上）	・「できた」「分かった」など、喜びのある学びがあったと答える児童生徒 90%以上	研修課
		・児童生徒の実態や課題について学び合える場の設定（流れ図を使用した実態把握、掲示板を活用した教師の専門性を高めるための情報提供、専門家から自立活動の指導に関する助言を受けるなど）	・児童生徒の実態に合った目標や活動内容、支援を設定することができたと答える教員 80%以上	自立活動課
		・授業に基づいた文化的・体育的活動の充実 行事等の運営、美術展等への参加、読書活動の推進、プール学習の安全な運営	・体育や音楽、図工美術の授業に楽しく取り組むことができたと答える児童生徒 90%以上	学習指導課
		・ICT に関する情報発信月１回以上 DX だよりの発行　月１回以上 夏の ICT 研修会 学部ミニ学習会　年１回	・必要に応じ ICT を活用し学習や生活上の効果があったと答える教員 95%以上	教育 DX 課

（ウ）〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	**地域に根ざし、共生社会を構築する取組の推進・センター的機能の充実**			
	児童生徒の学びと社会参加を支える連携・協働体制の充実	・学校、保護者、関係機関の連携 ケース会議、校内支援委員会 伊豆医療福祉センター連絡会 月１回	・各種会議や個別の教育支援計画の活用により関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が	連携課

		幼児教室　年２回 学校見学会　年１回 ・交流及び共同学習の充実 地域の同世代との学校間交流 年２回以上 交流校との打ち合わせ　年２回以上	支えられたと感じる保護者、教員 80%以上 ・交流及び共同学習を通じて児童生徒が相互に学びあい理解が深まったと感じる教員 90%以上	

（エ）〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

No	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	**教職員の資質向上**			
	質の高い教育のための学び続ける教職員	・学部や学年を超えて互いの授業を見合い、学び合える機会の設定と校内のニーズに合わせた人材活用	・授業や行事の参観・体験、研修の共有、人材の活用など「有効であった」と答える教職員 80%以上	企画会（学部）
イ	**業務改善の推進**			
	持続可能で質の高い教育活動のための働きやすい職場	・タイムマネジメントに取り組み、教員と事務職員等がそれぞれの専門性・役割を生かし協働して校務運営に参画し力を発揮できる職場環境づくり	・タイムマネジメントを意識し、機能的なチーム体制に取り組み、「業務を効率的、効果的に進めた」と答える教職員 80%以上	企画会（学部分掌、事務）

4　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	命を守る緊急時対応力の向上 ・実践的・効果的な訓練を実施する。 ・ヒヤリハット（インシデント）情報の共有と注意喚起を速やかに行い、安全管理に努める。	・緊急時に備える実践的な訓練 ①緊急体制訓練他 年４回 ②注入時発災訓練 年１回 ・日常的な安全な環境づくり ③安全点検の実施 月１回 ④ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策を検討した。
	地域との交流活動の推進の継続 ・特別支援学校と小中学校における「共生・共育」の推進を図るために、新たな連携の可能性を探る取り組みをする。	・静岡県の指定研究として２年間推進している。 ①小学部は、韮山小学校、韮山南小学校、伊豆の国特別支援学校小学部と、中学部は、韮山中学校、伊豆の国特別支援学校中学部の学校間で交流を実施した。 ②伊豆の国市の行事へ参加した。 教員の相互間研修を実施した。
	ＳＤＧｓの取り組みの継続 ・ＳＤＧｓの考え方を児童生徒に意識づける取り組みを行う。	・各学部の授業で取り上げ、児童生徒の意識向上に取り組んだ。 ①高等部作業で「ペットボトル、アルミ缶」の回収、分別を行い、リサイクル業者へと引き継いだ。 ②美術・図工の材料として廃材を利用した。 ・エアコンの効果的な使用方法などを教職員間で共有し今年度も省エネに取り組んだ。

令和 8 年度	**児童生徒の命を守る危機管理力の向上と安全教育の充実** ・安心して学校生活を送ることができたと答える生徒が増えるような取り組みをする。 ・安全に支援するために適切な判断と行動ができるように訓練を実施する。	・緊急時に備える実践的な訓練を実施する。 緊急体制訓練等 年４回 注入時発災訓練 年２回 ・日常的な安全な環境づくりに取り組む。 安全点検の実施 月１回 ・ヒヤリハット・インシデントの速やかな情報共有と再発防止策の検討・実施する。
	児童生徒一人一人が資質・能力を身に付けるための専門性をいかした授業の充実 ・「できた」「分かった」など、喜びのある学びを実践する。 ・児童生徒の実態に合った目標や活動内容、支援を設定する。 ・体育や音楽、図工美術の授業に楽しく取り組む。 ・必要に応じ ICT を活用し、学習や生活の向上を目指す。	・自身が指導上必要とする専門性の向上に向けた職員同士の学び合いを設定する。（授業を通したテーマ検証を通年、研修報告などの共有機会を年３回以上） ・児童生徒の実態や課題について学び合える場を設定する。（流れ図を使用した実態把握、掲示板を活用した教師の専門性を高めるための情報提供、専門家から自立活動の指導に関する助言を受けるなど） ・授業に基づいた文化的・体育的活動の充実を図る。 行事等の運営、美術展等への参加、読書活動の推進、プール学習の安全な運営する。 ・ICT に関する情報発信　月１回以上 DX だよりの発行　月１回以上 夏の ICT 研修会（選択研修を３回、悉皆研修を１回実施した） 学部ミニ学習会　年１回
	児童生徒の学びと社会参加を支える連携・協働体制の充実 ・各種会議や個別の教育支援計画の活用により関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えていく。 ・交流及び共同学習を通じて児童生徒が相互に学び合いができるように取り組む。	・学校、保護者、関係機関で連携する。 ケース会議、校内支援委員会 伊豆医療福祉センター連絡会月１回 幼児教室　年２回 学校見学会　年１回 ・交流及び共同学習の充実を図る 地域の同世代との学校間交流 年２回以上 交流校との打ち合わせ年２回以上

5　教職員について（本校）

(1) 異動状況

（単位：人）

区分＼職名	本務職員														臨時・会計年度任用職員							
	教育職員							行政職員														
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員	小計	教諭（任期付・臨時）	栄養士（臨時）	主事（臨時）	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員	小計	計
転出				8						2				10			1				1	11
退職				3	3								1	7	5						5	12
昇任														0							0	0
転入				8	3								1	12	4		1	2	1		8	20
新任				2										2	1						1	3
差引増減	0	0	0	▲ 1	0	0	0	0	0	▲ 2	0	0	0	▲ 3	0	0	0	2	1	0	3	0

(2) 現員数

ア　職員の配置状況

（単位：人）

本務職員														臨時・会計年度任用職員							
教育職員							行政職員														
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員	小計	教諭（任期付・臨時）	栄養士（臨時）	主事（臨時）	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員・非常勤嘱託員	心理専門員	小計	計
1	1	1	63	3	2	1	1	1	1	0	0	1	76	11	1	1	12	9	1	35	111

イ　職員の年齢

（令和８年７月 31 日現在）

年　　齢	人　　員	摘　　要
20 歳 未 満	0　人	
20 歳以上 30 歳未満	8　人	
30 歳以上 40 歳未満	24　人	
40 歳以上 50 歳未満	21　人	
50 歳以上 56 歳未満	4　人	
56 歳以上 61 歳未満	10　人	
61 歳 以 上	8　人	うち再任用４人
計	75　人	平均年齢 43 歳９月

（3）健康管理について

ア　取り組みの状況

教職員の健康の保持増進を図り、学校教育・教育行政の円滑な実施とその成果の確保に資するため、労働安全衛生法、学校保健安全法に基づく教職員定期健康診断を実施している。

対象者全員が結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックのいずれかを受診し、再検査指示があった者は速やかに受診している。令和７年度の受診対象者の再検査を含む受診率は100%だった。情報機器検診の二次検診対象者は４人で、うち１名が精密検査を受診した。その結果、リハビリを受け業務は通常通り行うことが出来ている。腰痛健診では５名が二次健診を受診した。すぐに受診が必要な職員はいなかったが医師から助言を受け、腰痛予防に努めている。

日常的な取り組みとしては、始業前に腰痛予防のためのラジオ体操を実施しており、教員数名が自主的に参加している。また、健康雑誌の内容を毎月掲示板で紹介し、教職員が自由に読めるようにしている。

職場の健康づくり支援事業については、令和７年度は職員健康講座で「ケアタッピングタッチ」と「セルフヘッドスパ」を実施し、手軽にできる心と身体を癒すリフレッシュ方法を学んだ。どちらも簡単で分かりやすい手技を教えて頂き、日常生活でもすぐに実践えきる内容であった。セルフヘッドスパは、肩こりや目の疲れを感じている職員が多く、受講後は視野がすっきりしてよく見えるようになり、頭部だけでなく全身がすっきりした職員が多かった。セルフケアで自分の体と向き合う時間を作るきっかけとなった。

年間を通じた健康情報の啓発やメンタルヘルスケアを行っており、教職員のストレスチェックも毎年実施している。

イ　健康管理状況

(ｱ)　前年度受診状況

区　　分	内　　容
受 診 状 況	受診者数　75 人 職 員 数　79 人
受　診　率	100%
県平均受診率	100%

a 未受診の理由

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

(ｲ)　本年度在籍者の健康管理区分結果

健　康　管　理　区　分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	
B２		要経過観察	
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	
C２		要経過観察	
D１	平常の勤務でよい。	要 治 療	5　(5)
D２		要経過観察	18　(18)
D３		医療不要	51　(51)
区 分 者 計			74　(74)
未区分者数			1
合　　計			75

a 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

該当なし

b 未区分の理由

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

（４） 教職員の研修について

ア　令和７年度

(ｱ) 校内研修

研修目標
研修主題「児童生徒の学びを支える専門性の向上 ～教員一人一人のニーズに応える研修を通して～」を掲げ、それぞれが必要としている授業を支える専門性の向上を図る。
令和７年度の研修について
同じ研修ニーズを持つ教員で小集団を形成し、テーマや研究授業を含めた検証方法など、その研修グループで考えた研修計画を基に求めた専門性に迫る。
研修内容
・同じ研修ニーズを持った教員で、小集団を形成する。 ・各研修グループ内で、研修の背景や目的を共有した後、仮説を立て、研修テーマを設定する。 ・設定したテーマのもと、ゴールとそのプロセスが明確にされた研修計画を立て（Ｐ）、実践（Ｄ）、検証（Ｃ）、改善（Ａ）を繰り返し行う。 ・各研修グループで授業を公開し、事後研修を通して研修グループを越えたメンバーによる検証も行い、設定した仮説ゴールに迫る改善へ繋げる。 ・テーマや研修計画を報告して共有する「中間報告会」、研修計画を基に実践され得た成果を共有する「成果報告会」を設定し、そこで行われる情報共有や意見交換を通して、学びの深まりや広がりへ繋げる。
成果と課題
11 の研修グループが形成され、推進役であるファシリテーターが中心となり、テーマを設定し、計画を立て、１年間の研修を滞りなく進めることができた。その結果、到達度は違うものの、仮説に対する成果を得ることができ、職員全体の専門性向上につながる有益な情報を積むことができた。高められた専門性は、静岡県総合教育センターの肢体不自由教育の専門性チェックシートを活用してまとめた。 成果としては、各グループがテーマ設定から計画立案、実践、検証まで主体的に取り組んだ。その結果、多くの教職員が専門的知識や技能の向上を実感し、約９割が目標を達成できたと回答するなど、児童生徒の学びを支える専門性向上と授業改善に一定の成果が認められた。また、学部や学年を越えた協働により、多様な視点から学びを深めることができ、主体的に学び続ける教職員集団の形成にもつながった。 一方で、研修テーマの焦点化や学習指導要領との関連の明確化、研修成果の共有方法、研修初期段階における支援体制などに課題が残った。

(ｲ) 専門性向上のための研修

研修の内容
（上記(ｱ)に加え） ・はごろも『夢』講演会：「重度・重複障害のある児童生徒の授業づくり～実態把握からの筋道の再認識を通して～」という演題で、福岡教育大学 教育学部 特別支援教育ユニット 教授 一木　薫氏の講演会を実施する。 ・自立活動課研修：新様式での流れ図の活用の仕方と「摂食」「排痰」に関する学習会も併せて実施する。 ・教務課研修：新様式に向けた「個別の指導計画」に関する学習会を、数回に分けて実施する。
成果と課題
・はごろも『夢』講演会：重度・重複障害のある児童生徒への授業プロセスの再認識や、教科指導と自立活動の解説を通じて、煩雑だった知識を整理した。教職員の自己評価からもその成果が示され、授業づくりの土台となる考え方を全教職員で共有した。 ・自立活動課研修：継続して「流れ図」に関する考え方や捉え方の共有を図ることができたとともに、その基盤ができたことで、実際に「流れ図」を用いて児童生徒の中心課題や指導内容を導き出すことにスムースに取り組めるようになった。 ・教務課研修：現在作成している「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」と、今年度より作成する「流れ図」のそれぞれの意義や作成のポイントについて共通理解を図ることができた。

イ　令和８年度

(ｱ) 校内研修

研修目標
研修主題「児童生徒の学び「できた」「分かった」を支える授業力の向上 ～教職員一人一人のニーズに応える研修を通して～」を掲げ、それぞれが必要としている児童生徒の学びを支える授業力の向上を図る。
令和８度の研修について
同じ研修ニーズを持つ教員で小集団を形成し、テーマ設定や授業実践・共有を含めた検証方法など、その研修グループで考えて立てた研修計画を基に求めた授業力の向上を図る。また、他グループとの共有機会を定期的に設定し、所属グループ以外の研修からも学び、学校全体で必要とされる専門性を高めていけるようにする。
研修内容
・同じ研修ニーズを持った教員で、小集団を形成する。 ・各研修グループ内で、研修の背景や目的を共有した後、仮説を立て、研修テーマを設定する。 ・設定したテーマのもと、ゴールとそのプロセスが明確にされた研修計画を立て（Ｐ)、実践（Ｄ)、検証（Ｃ)、改善（Ａ）を繰り返し行う。 ・研修グループ間で実践を共有し、研修グループを越えたメンバーによる情報交換を行い、設定した仮説ゴールに迫る改善へつなげる。 ・テーマや研修計画を基に実践され得た成果を共有する「成果報告会」を設定し、そこで行われる情報共有や意見交換を通して、学びの深まりや広がりへつなげる。

(ｲ) 専門性向上のための研修

研修の内容
（上記（ア）に加え） ・はごろも『夢』講演会：「肢体不自由のある児童生徒の適切な実態把握に向けて～身体的特徴の基本的な見方・考え方を通して～」という演題で、北村　和史氏の講演会を実施する。 ・自立活動課研修：新様式での流れ図の活用の仕方と「摂食」「排痰」に関する学習会も併せて実施する。 ・教務課研修：新様式に向けた「個別の指導計画」作成の重点目標を立てることに関する学習会を、数回に分けて実施する。

６　防災対策について

（１）令和７年度

指導目標
防災訓練や防災教育、防災研修を通して、肢体不自由学校として必要な災害時の対策や支援を考える。
取組内容
・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、学校周辺で実際に発災した状況をいかして、本年度は風水害に対する垂直避難訓練を実施する。 ・外部講師を招き、教職員の研修会や児童生徒への防災講話では、防災関連のアプリを実際に活用して予知・予防的な訓練を実施する。 ・防災計画書の内容を周知し、教職員が自分の役割を理解し行動できるように、避難訓練の中に各班の業務内容を取り入れて訓練を実施する。 ・安心で安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習、緊急体制等）を他の分掌と連携して日常生活に取り入れる。 ・学校の防災備品や個人の防災バッグの中を確認したり、非常食を試食したりする機会を設け、非常時に備え、危機管理意識を高める。年２回は保護者との防災用の食料や衣料の確認を実施する。

(2) 令和８年度

指導目標
防災訓練や防災教育、防災研修を通して、肢体不自由学校として必要な災害時の対策や支援を考える。
取組内容
・教職員や児童生徒が災害時に適切な行動をとれるように、学校周辺で一昨年実際に発災した状況をいかして、本年度も継続しては風水害・内水氾濫に対する２回目の垂直避難訓練を実施する。ポータブル電源の運搬と活用を実施する。二次待機場所や待機時間中の活動について検討していく。 ・外部講師を招き、教職員の研修会や児童生徒への防災講話では、防災関連のアプリを実際に活用してタイムラインに沿った予知・予防的な訓練を学校所在地及び職員の居住地について検証する。 ・防災計画書の内容を周知し、教職員が自分の役割を理解し行動できるように、研修や避難訓練の中に各班の業務内容を取り入れて研修や訓練を実施する。 ・安心で安全な教育環境を整えるため、防災・減災に向けた取り組み（安全点検、防災学習、緊急体制医ケア等）を他の分掌と連携して日常生活に取り入れる。 ・学校の防災備品や個人の防災バッグの中を確認したり、非常食を試食したりする機会を設ける。防災バッグは２階校舎に保管し、非常時に備え危機管理意識を高める。年２回は保護者との防災用の食料や衣料を確認する。ローリングストックや季節に応じた衣料の交換など保護者との連携を高める。

7 学校開放について

実施していない。

□□□□□□

事務事業の概要（伊東分校）

1　概況

(1)　学校の沿革

平成11．4．1　静岡県立東部養護学校伊東分校として、伊東市立西小学校内に開設

11．4．7　開校式、入学式を挙行

12．6．2　公用車（マイクロバス15人定員）による通学支援開始

14．4．1　分掌換えにより、伊東城ヶ崎高等学校校舎の一部（延332.16㎡）が、伊東分校高等部校舎となる。同校の校舎内に開設

14．4．10　高等部開設式、入学式を挙行

17．4．1　公用車に代わり、業者委託によるスクールバス運行開始

18．3．31　伊豆高原分校開設に伴い伊東分校高等部を廃止

20．4．1　静岡県立東部特別支援学校伊東分校と校名変更

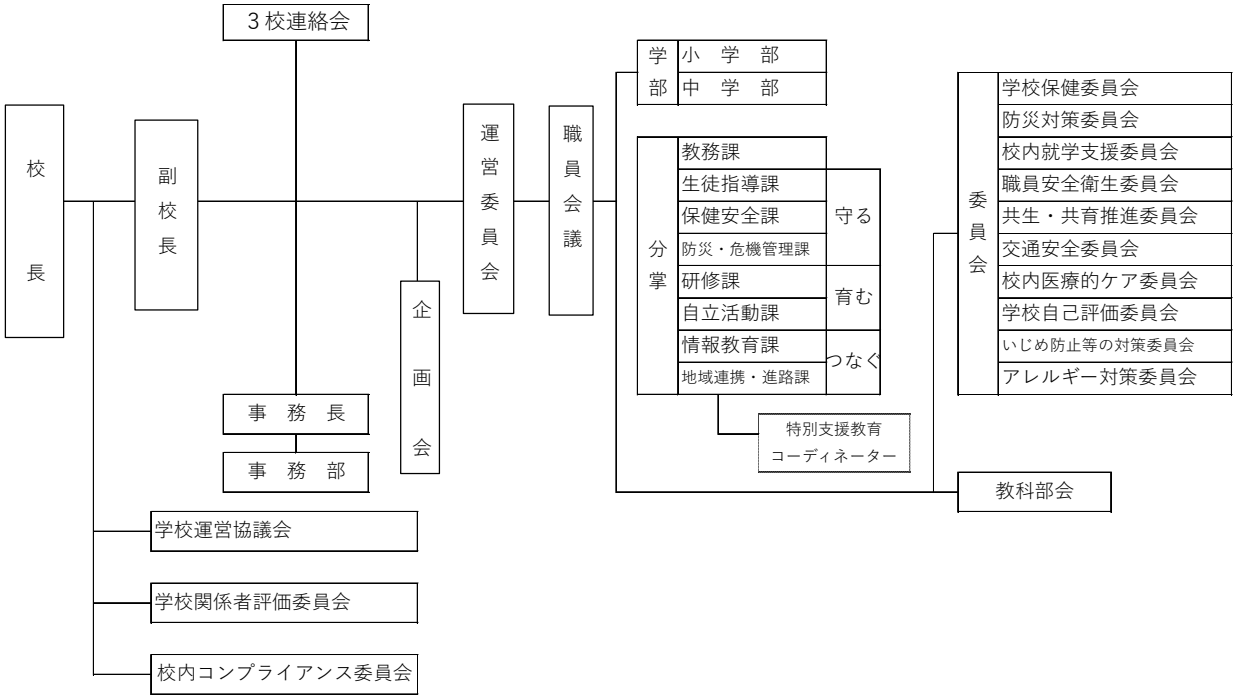
20．11．29　開校10周年記念式典を挙行

30．12．1　開校20周年記念式典を挙行

令和5．3．31　併置校の伊東市立西小学校が統合により閉校となり、単独設置となる

5．9．1　旧伊東市立旭小学校校地へ移転

(2)　学校運営組織図



2 目指す学校像

⑴ 教育目標 「つたえあう つくりあう たかめあう人」

【知】豊かなコミュニケーションができる人

【体】つくること、はたらくことを楽しむ人

【徳】生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人

教育目標の具現化に向けて、〈守る〉、〈育む〉、〈つなぐ〉、〈高める〉の４つの視点を掲げ、学校づくりを進める。

⑵ 目標具現化の柱

ア〈守る〉安全で安心な教育環境

(ｱ) 安全な学校環境の整備

(ｲ) 人権を尊重する教育

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

(ｱ) 学び・授業の充実

(ｲ) 特別支援教育の専門性の向上

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

(ｱ) 「共生・共育」の推進

(ｲ) 地域との連携、ならびに地域資源の活用

(ｳ) 特別支援学校のセンター的取組の充実

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

(ｱ) 教職員の資質向上

(ｲ) 業務改善の推進

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

⑴ 令和７年度の取組目標への評価及び成果と課題

（重点目標はゴシック体で記載）

（１）〈守る〉安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	安全・安心を守る学校組織の機能充実				
ア	(ｱ)予防的な安全確認によるリスク管理	・危険箇所を把握し、児童生徒の安全を守るため対策を取ることができたと答える教職員 90%以上	・月１回安全点検を実施し、かつ点検時に危険箇所を予測するよう事前指導を行った。必ず２人１組で点検し、複数の目で危険箇所がないかを確認した。 危険箇所は全体で共有する場を設けた。必要箇所には適宜対策を講じた。	A	教職員アンケート100% 保護者アンケート100% ○危険予測の考え方が教職員に根づき、安全対策が概ね有効に機能した。重大事故の発生もなかった。 ●校舎外壁の崩落や、旭山にある木の倒木など、建造物や学校周辺までの安全管理が必要である。
	(ｲ)発災時の初動体制共有と１次避難後の対応整備	・全教職員が初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒の避難誘導に当たることができたと答える教職員 100%	・年間５回の避難訓練を行った。それぞれ想定を変えて、訓練を行ったところ、全職員が初動体制を理解し、発災時の対応を確認することができた。	A	**教職員アンケート100%** **保護者アンケート100%** ○児童生徒が落ち着いて避難でき、引渡訓練も改善して実施できた。 ○年度初めに避難所運営計画を見直すことができた。 ●あらゆる災害を想定して訓練を行ってはいるが、今後もあらゆる想定をして訓練を行っていく必要がある。

	人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援				
イ	㋐ 一人一人の人権意識向上と共有	・体罰等不適切な指導を未然に防ごうと意識したと答える教員100%	・各学期に１回教員人権チェックまたはグループワークを実施した。 ・児童生徒の人権を守るために、対話型の不祥事根絶研修を行い、教員の意識を高めることができた。	A	教職員アンケート100% 保護者アンケート100% ○研修会や定期的な人権意識呼びかけを行ったところ、体罰などの不適切な指導が発生しなかった。 ●不適切な指導が発生しないように、教員一人一人の意識を常に高め、職場全体の雰囲気を醸成していきたい。
	㋑人権教育年間計画の活用	・人権教育年間計画に則り、児童生徒への支援・指導を行うことができたと答える教員 90%以上	・担当部署が呼びかけし、計画的に人権教育年間計画の見直しを行うことができた。 ・定期的に年間計画を振り返ることによって、児童生徒への指導支援を行うことができた。	A	教職員アンケート100% 保護者アンケート100% ○全ての学年において、人権教育年間計画を策定し、定期的に振り返ることができた。 ●研修という設定された場だけでなく、常日頃から、人権に対する意識を高めていく必要がある。

（2）〈育む〉高い専門性に基づき、自己実現に向け、個に応じた指導支援を展開する。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	アセスメントによる課題把握に基づく指導支援				
ア	個の課題に応じた専門性の高い指導	・１人１人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたと答える教員80%以上 ・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じたと答える児童生徒が 80%以上	・夏季休業中に、自立活動の視点や認知発達段階等から多角的に実態把握するための研修を行った。 ・課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年２回実施した。 ・情報機器の活用事例を紹介し、情報共有を行った。	A	教職員アンケート96.6% ○研究授業を通して、アセスメントの取り方や、教材教具の工夫について、意見を発表し合うことができた。 ○児童生徒は、タブレット端末を活用した学習に、進んで取り組んでいた。 ●個人情報保護など、情報リテラシーについて、常日頃意識する必要がある。
	年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用				
イ	系統性を考えたキャリア教育	・各段階でキャリア教育を意識した単元が設定され、指導に生かすことができたと答える教員 80%以上	・年齢段階に応じてキャリア教育を意識した単元を設定し、授業を行った。 ・個の実態に応じて、児童生徒自らが、振り返りや共有につながるキャリアパスポートを作成した。	B	教職員アンケート93.3% ○保護者と情報を共有して、キャリアパスポートを作成した。 ○随時外部機関と情報を共有することができた。 ●キャリアパスポートをどのように役立てるか、さらに研究、教員同士の研修が必要である。

（3）〈つなぐ〉地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校を目指す。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	学校間交流における方法・共同学習の工夫				
ア	**新たな方法での学校間交流推進**	・小学部の各学年が、伊東小学校と交流を年間１回以上 ・中学部が伊東北中学校と共同学習を年間４回以上	・小学部の１年生から４年生は年２回交流を行った。 ・小学部の５年生と６年生は、年１回交流を行った。 ・特別支援学級との交流は、感染症拡大防止の観点より中止した。 ・中学部は、４回交流を行うことができた。	A	**教職員アンケート100%** **保護者アンケート100%** ○児童生徒は、学校間交流を行うことによって、進んでコミュニケーションをとる姿勢や、協調性を学ぶことができた。 ●児童生徒がより有意義に活動できるよう、事前に教員間の連絡を密にしたい。
	地域と一層の連携促進、地域資源の活用推進				
イ	**地域の分校理解推進** **新たな地域資源の活用**	・地域の方と共に学ぶ機会が年間２回以上 ・湯の花商店街との交流活動が年間２回以上	・地域の方を対象とした学校見学会を年２回実施した。 ・分校だよりを年５回発行した。 ・地域の回覧板に分校だよりを回覧し、伊東分校の活動内容を周知した。 ・ＨＰを随時更新し、教育活動情報を発信した。	A	**教職員アンケート100%** **保護者アンケート100%** ○学校見学会に参加した地域の方から、草取りなど学校環境美化に協力したいと申し出があった。 ●既存活動とのバランスを考慮しながら、新しい取り組みを進めていく必要がある。
ウ	地域のニーズ把握と教育力向上の支援	・見学会等を通じセンター的役割の説明が行われた回数が年間２回以上 ・利用後に支援が役に立ったと答える機関80%以上	・学校見学会（就学）を開催し、伊東市・熱海市教育委員会と連携することができた。 ・幼児保育教育機関、小中学校、高等学校からの要請により、コーディネーターが巡回指導を行うことができた。	A	教職員アンケート100% ○就学を希望している保護者へ、特別支援学校について情報を提供することができた。 ●コーディネーターの取り組みを全教員へ周知し、理解啓発を図る。

（4）〈高める〉教職員が互いに高めあい、業務を通して自己実現できる環境を作る。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善				
ア	㋐不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	・不祥事要因と防止のための注意点が共有され、不祥事ゼロを目指したと答える教職員 100%	・定期的な注意喚起を行うことで、所属意識を高め、不祥事を生み出さない職場環境を醸成した。 ・対話型のグループワーク研修により、不祥事要因の分析と検討を行った。	A	教職員アンケート100% ○体罰、交通事犯など報告を要する不祥事は発生しなかった。 ●事案に対して、一人ではなく、チームで対応する意識を養いたい。
	㋑ 教育課程全体を見通した行事計画策定と会議等時	・職員会議、学部会、及び分掌課会は 60 分を超えることがないよう、時間を意識したと答える教職員 100%	・児童生徒の発達状況や課題や教育課程全体のバランスの２観点から、行事を精選し、年間計画に反映した。 ・会議時間は事前提示の	A	教職員アンケート100% ○学部会、分掌課会などの会議は 60 分以内に終えることができ、生じた時間は、個

	間管理徹底		上厳守した。掲示板の活用や事前資料配布、議題予告などで内容を精選した。		人業務の時間に充てることができた。 ●教職員の勤務時間の縮減を進めるにあたって、さらなる業務改善が必要である。
	職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成				
イ	個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進。	・学校経営に参画できたと答える教職員80%以上 ・グループワークの効果があったと答える教職員80%以上	・職員個々の個性や強みを考慮した人事や学部学年分掌内の役割分担を行った。 ・長期休業等を活用し相互理解を目的に年２回のグループワークを実施した。	B	教職員アンケート96.6% ○教職員同士が気兼ねなく、自分の意見を言い合うことができた。 ●自分の意見が学校運営に反映されているという、フィードバックが大切である。

(2) 令和８年度の取組目標・達成方法・成果目標

（重点目標はゴシック体で記載）

ア〈守る〉安全で安心な教育環境

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	安全な学校環境の整備			
	㋐予防的な安全確認によるリスク管理	・月１回、校内の安全を複数職員で予防的視点からチェックし、必要箇所には緊急度に応じた対策を講ずる。	・危険個所を把握し、児童生徒の安全を守るため対策を取ることができたと答える教職員90%以上	保健安全課 企画会
	㋑発災時の初動体制共有と一次避難後の対応整備	・地震、火災想定を年２回ずつ、土砂災害想定１回の訓練を実施する。 ・一次避難後の職員対応体制を整備する	・全教職員が初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒の避難誘導に当たることができたと答える教職員100%	防災危機管理課
イ	人権を尊重する教育			
	一人一人の人権意識向上	・学期１回ずつ、教員人権チェックまたはグループワークを実施。	・体罰等不適切な指導を未然に防ごうと意識したと答える教員100%	生徒指導課

イ〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学び・授業の充実			
	㋐児童生徒が主体的に学べる授業づくり	・児童生徒の実態に合わせ、興味関心がある授業づくりを行う。 ・教員間が意思疎通を図ることで、授業を構築する。	・授業が楽しいと答えた児童生徒90%以上	研修課 自立活動課
	㋑ICTを活用した授業づくり	・情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。	・情報機器を活用できたと答える教員が80%以上	情報教育課
イ	特別支援教育の専門性の向上			
	個の課題に応じた専門性の高い指導	・児童生徒を、多角的に実態把握するための研修を行う。 ・子ども理解に基づく課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年２回実施。	・一人一人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたと答える教員80%以上	研修課 自立活動課

ウ〈つなぐ〉児童生徒の学びと生活を支える連携

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	「共生・共育」の推進			
	学校間交流の推進	・交流校と打ち合わせを行い、計画的に交流を行う。 ・直接交流、間接交流、オンラインによる交流など、取り入れ、年間通して、交流活動ができるように工夫する。	・小学部の各学年において、伊東小学校との直接交流の回数が年間１回以上 ・中学部で伊東北中との共同学習の回数が年間４回以上	各学部 共生・共育推進委員会
イ	地域との連携、ならびに地域資源の活用			
	地域の分校理解推進と新たな地域資源の活用	・岡地区の地域資源について教職員が知る機会を設ける。 ・岡地区の方と、児童生徒が協働活動する場面を設定する。	・岡地区にある地域資源を活用して学ぶ機会を年間２回以上	学部・学年 地域連携・進路課
ウ	特別支援学校のセンター的取組の充実			
	児童生徒の学びを支える連携の充実	・幼児保育教育機関、小中学校、高等学校の支援ニーズを確認し専門的な支援を行う。 ・教育相談に同行することによって、地域連携の内容を知る。	・見学会等を通じセンター的役割の説明が行われた回数が年間２回以上 ・教育相談に同行する教員、年間２人以上	地域連携・進路課

エ〈高める〉教職員が互いに支えあう職場

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	教職員の資質向上			
	個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	・教職員一人一人の強みを考慮した役割分担する。 ・長期休業等を活用し、相互理解を目的に年２回のグループワーク実施。	・学校経営に参画できたと答える教職員 80%以上 ・グループワークの効果があったと答える教職員 80%以上	管理職 企画会
イ	業務改善の推進			
	会議等の時間管理徹底	・会議時間は事前提示の上厳守、掲示板活用、資料事前配布、議題予告などで内容を精選する。	・職員会議、学部会、分掌課会 60 分を超えることがないよう、時間を意識したと答える教職員 100%	企画会 教務課

４　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和７年度	〈交流及び共同学習の推進（継続）〉 ・昨年度に引き続き、小学部は伊東市立伊東小学校と、中学部は伊東市立北中学校と学校間交流を推進する。 ・小学部は、各学年で交流を行う。伊東分校児童がスクールバスで伊東小学校へ訪問して、直接交流を行う。伊東小学校が伊東分校に訪問する場合もある。 ・中学部は、年間４回学校間交流を行う。北中生徒会と合同で、清掃活動を行ったり、北中生徒会が企画運営する交流会で、親睦を深めたりする。	【成果】 ・４月に副校長と小学部主事、学年主任が伊東小学校へ出向き、各学年で１年間の交流活動計画の話し合いを行い、計画的に学校間交流を行うことができた。 ・小学１年生の時から、同学年の友達との交流を行うことで、顔なじみとなり、お互いの名前を呼び合って交流する姿が見られた。 ・北中学校と１年間の交流活動計画の話し合いを行い、計画的に学校間交流を進めることができた。 ・今年度より新たに「プランター交流」を行った。お互いの育てた花が身近にあることで、生徒たちは日常的に交流活動を意識することができた。

		【課題】 ・交流だけでなく、共同学習の視点から、お互いの交流活動について、新たな視点を見出していきたい。
	〈防災教育の推進〉 ・児童生徒が「自分の身は自分で守る」ことを目的に、年間を通じて、地震・津波・火災などの災害を想定した避難訓練を複数回実施計画する。 ・保護者とは、「引き渡し訓練」や「伝言サービスを利用した情報伝達訓練」を計画する。	【成果】 ・事前に予告したうえで、避難訓練に取り組んだところ、自ら頭部損傷防止のためのヘルメットをかぶったり、煙を吸い込まないように口にハンカチを当てたりする姿が見られた。 ・引き渡し訓練や「171 伝言サービス」の訓練を行い、手順について確認することができた。 【課題】 ・発災時の避難訓練だけでなく、発災後の避難所での過ごし方なども、検討していきたい。
令和8年度	〈学び・授業の充実〉 ・児童生徒が自ら考え、選択し、友達と学び合う授業を通して、「学ぶことが楽しい」、「学校が楽しい」という意欲を育む。 ・令和８年度は、３か年計画の全体研修でまとめの年であり、授業づくりを通して、教員研修を深めていく。	・全体研修の時間で、教員全員で今年度の研修について共通理解をした後、学部研修を行う。 ・児童生徒のアセスメントを行い、課題を明確にしてから授業づくりに取り組む。 ・各学部年間２回以上の研究授業を行う。 ・外部講師を招聘し、授業に対して助言をいただく。
	〈地域との連携、ならびに地域資源の活用〉 ・新しい校地となった岡地区の地域資源について知り、児童生徒の学習活動と連携することによって、児童生徒・学校と地域の「共生・共育」を図る。	・新しい校地となった、岡地区の地域資源を知る機会を設ける。 ・児童生徒が、岡地区の地域資源について知り、地域と連携した学習に取り組む。 ・学校見学会（地域）を行い、地域の方に、伊東分校について知ってもらう場を設定する。

5　教職員について（伊東分校）

(1) 異動状況　　（単位:人）

職名／区分	本務職員														臨時・会計年度任用職員							
	教育職員							行政職員						小計	教諭（任期付・臨時）	養護教諭（任期付）	主事（臨時）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員／非常勤労務職員	小計	計
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員									
転出				3		1				1				5							0	5
退職					2									2	2				1		3	5
昇任														0							0	0
転入				5						2				7	2	1					3	10
新任				1										1	1						1	2
差引増減	0	0	0	3	▲ 2	▲ 1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	▲ 1	0	1	2

(2) 現員数

ア　職員の配置状況　　（単位:人）

本務職員														臨時・会計年度任用職員							
教育職員							行政職員														
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員	小計	教諭（任期付・臨時）	養護教諭（任期付）	主事（臨時）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員／非常勤労務職員	小計	計
0	1	0	25	0	0	1	0	0	3	0	0	0	30	6	1	0	1	0	6	14	44

イ　職員の年齢

年　　齢	人　　員	摘　　要
20歳未満	0　人	
20歳以上30歳未満	6　人	
30歳以上40歳未満	9　人	
40歳以上50歳未満	8　人	
50歳以上56歳未満	6　人	
56歳以上61歳未満	1　人	
61歳以上	0　人	
計	30　人	平均年齢40歳4月

(3) 健康管理について

ア　取り組みの状況

令和７年度に実施した結核検診及び生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックの受診率は100%であった。令和８年度も、教職員の健康保持増進、学校教育、教育行政の円滑な実施のため、各種健康診断を受診している。検査結果で再検査の指示があった教職員は、生活習慣を改善した後、医療機関において再検査を受けるようにしている。その他、県が実施するＶＤＴ健診、腰痛健診では、特定疾患の早期発見、早期治療に努めている。

また、毎朝職員打合せの前にストレッチ体操を実施し、怪我の予防と健康維持に努めている。熱中症予防は、５月から10月まで、８時、10時30分、13時と１日３回、暑さ指数計を使ってＷＢＧＴを計測している。

ＷＢＧＴが31以上の時は、運動場や体育館の使用を控え、熱中症予防に努めている。

イ　健康管理状況

(ｱ)　前年度受診状況

区　　分	内　　容
受 診 状 況	受診者数　　29人 職 員 数　　29人
受　診　率	100%
県平均受診率	100%

a 未受診の理由

(ｲ)　本年度在籍者の健康管理区分結果

健　康　管　理　区　分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要　治　療	
B２		要経過観察	
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要　治　療	
C２		要経過観察	
D１	平常の勤務でよい。	要　治　療	4　(4)
D２		要経過観察	4　(4)
D３		医 療 不 要	22　(22)
区 分 者 計			30　(30)
未 区 分 者 数			0
合　　計			30

a　管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

該当なし

b 未区分の理由

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

(4)　教職員の研修について

ア　令和７年度

(ｱ) 校内研修

研修目標
研修テーマ 「子どもが気づき、考え、表現する授業づくり」～チームで話し合い、子どもの良さを支援に活かす～
研修内容
・「子どもを中心とした授業づくり」を合言葉に、子ども一人一人の実態把握を教員がチームを形成し、子どもの能力を伸ばす取組を行う。 ・授業研究を通して、学部を越えた教員間の学びを深め、繋がりを密にした個々の授業力を向上させる。

成果と課題
【成果】 ・教員の多くが、児童生徒を丁寧に見取り、一人一人の得意な点や、伸ばしたい力を生活と関連付けて捉えることを大切にしていることがわかった。 ・授業づくりにおいて、「気づく」「考える」「表現する」につながる学習活動を意識する教員が増えた。 ・グループワークや事例検討を通して、児童生徒の「良さ」に着目する視点が育ち、それを授業や教材づくりに生かすことができた。 ・R-PDCA サイクルを基盤とした授業づくりの定着に向けて、研修を進めることができた。 【課題】 ・児童生徒の目標設定に悩む教員が半数以上おり、適切な課題設定に課題がある。 ・太田ステージ評価やラーニングマップの理解・活用が十分でない教員も多く、客観的なアセスメントに基づく実態把握が弱い。 ・単元の振り返りの内容や方法、頻度が学年団ごとに異なり、効果的な手立てや児童生徒の成長を組織的に共有・蓄積する仕組みが十分でない。

(ｲ) 専門性向上のための研修

研修目標
・児童生徒が安全に学校生活を送る上での支援や配慮について、専門的な立場からの指導・助言を学校生活や授業作りに活かす。 ・日常の生活動作に困り感のある児童生徒への支援に必要な専門的知識を高める。
研修内容
・言語聴覚士を招聘し、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。 日時：令和７年６月11日(水)　９時30分～13時00分 講師：兒玉　真智子　言語聴覚士（伊豆医療福祉センター） 対象：小学部６年（１人） 中学部２年（２人）　３年（２人）　計５人 ・理学療法士を招聘し、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。 日時：令和７年６月 26 日(木) ９時 30 分～12 時 00 分 講師：安田　綾野 理学療法士（伊豆医療福祉センター） 対象：小学部１年（１人）　５年（１人） 中学部１年（１人）　２年（２人）　計５人 ・作業療法士を招聘し、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。 日時：令和７年７月９日(水)　９時30分～13時00分 講師：梶原淑恵　作業療法士（児童発達支援センター　クローバー） 対象：小学部３年（１人）　５年（１人）　６年（１人） 中学部１年（２人）　２年（２人）　３年（１人）　計８人
成果と課題
【成果】 ・1学期中に実施できたので、今後の指導に活かすことができた。 ・児童生徒への体へのアプローチ方法を聞くことができ、今後の指導の参考となった。 ・学校だけでなく、家庭とも連携を取る必要性を感じることができた。 【課題】 ・限られた時間の中で、専門的なアドバイスを受けるために、事前の準備が必要である。 ・年２回実施できるとなお良い。

イ　令和８年度

(ｱ) 校内研修

研修目標
研修テーマ 「子どもが気づき、考え、表現する授業づくり」～チームで話し合い、子どもの良さを支援に活かす～
研修内容
・客観的な指標となるアセスメント研修を行い、児童生徒理解を図る。 ・R-PDCA サイクルによる授業改善を更に推進し、児童生徒の「良さ」に目を向けながら、グループでの話し合いを活かして、児童生徒が気づき・考え・表現する力を育む授業づくりを研修する。 ・研究授業において、児童生徒の評価について研鑽を深める。

(ｲ) 専門性向上のための研修

研修目標
・児童生徒が安全に学校生活を送る上での支援や配慮について、専門的な立場から指導・助言をいただき、学校生活や授業作りに活かす。 ・日常の生活動作に困り感のある児童生徒への支援に必要な専門的知識を高める。
研修内容
・作業療法士などを招き、学校での配慮事項や支援の方法を、実技や講義から学ぶ。

6　防災対策について

(1) 令和７年度

指導目標
・防災防犯を含めた緊急時に対応するため、共通理解を図り、迅速かつ安全に配慮した初動体制をとることができる。 ・児童生徒を「守る」という安全意識を高め、様々な想定を考えて行動することができる。
取組内容
緊急時や様々な災害時の行動の整理と訓練を実施 ・火災、地震等の様々な状況に応じたマニュアルを作成し、防災意識を高める。 ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、適切に対応する。 ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。 ・定期的に施設設備などの安全点検を行う。
成果と課題
【成果】 ・職員会議で「危機管理研修」(防災等の危機管理マニュアル）を実施した。（４月・９月） ・児童生徒を対象に避難訓練を６回実施した。（火災、地震、土砂災害） ・教職員全員で新校舎及び周辺道路の確認を行った。 ・南海トラフ地震を想定した保護者への引き渡し訓練を実施した。 【課題】 ・防災等の危機管理マニュアルを更に見直し・整備をする必要が生じた。 ・学校近隣にある河川の増水、裏山の倒木など、新たな危機に対して、対応策を考えていく必要がある。 ・教職員一人一人の防災力の向上を図る。（自ら判断し、行動するため） ・児童生徒が安全に行動するために必要なことや注意することを明らかにする。

(2) 令和８年度

指導目標
・防災防犯を含めた緊急時に対応するため、共通理解を図り、迅速かつ安全に配慮した初動体制をとることができる。 ・児童生徒を「守る」という安全意識を高め、様々な想定を考えて行動することができる。
取組内容
緊急時や様々な災害時の行動の整理と訓練を実施 ・防災等の危機管理マニュアルの見直しを行い、教職員間で情報共有する。 ・緊急時や災害時の役割と動きを理解し、時間を意識した対応を行う。 ・児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施する。 ・定期的に施設設備などの安全点検を行う。 ・毎月安全点検を行い、危険な箇所がないか予測し、全職員で情報共有する。

7　学校開放について

実施していない。

□□□□□□

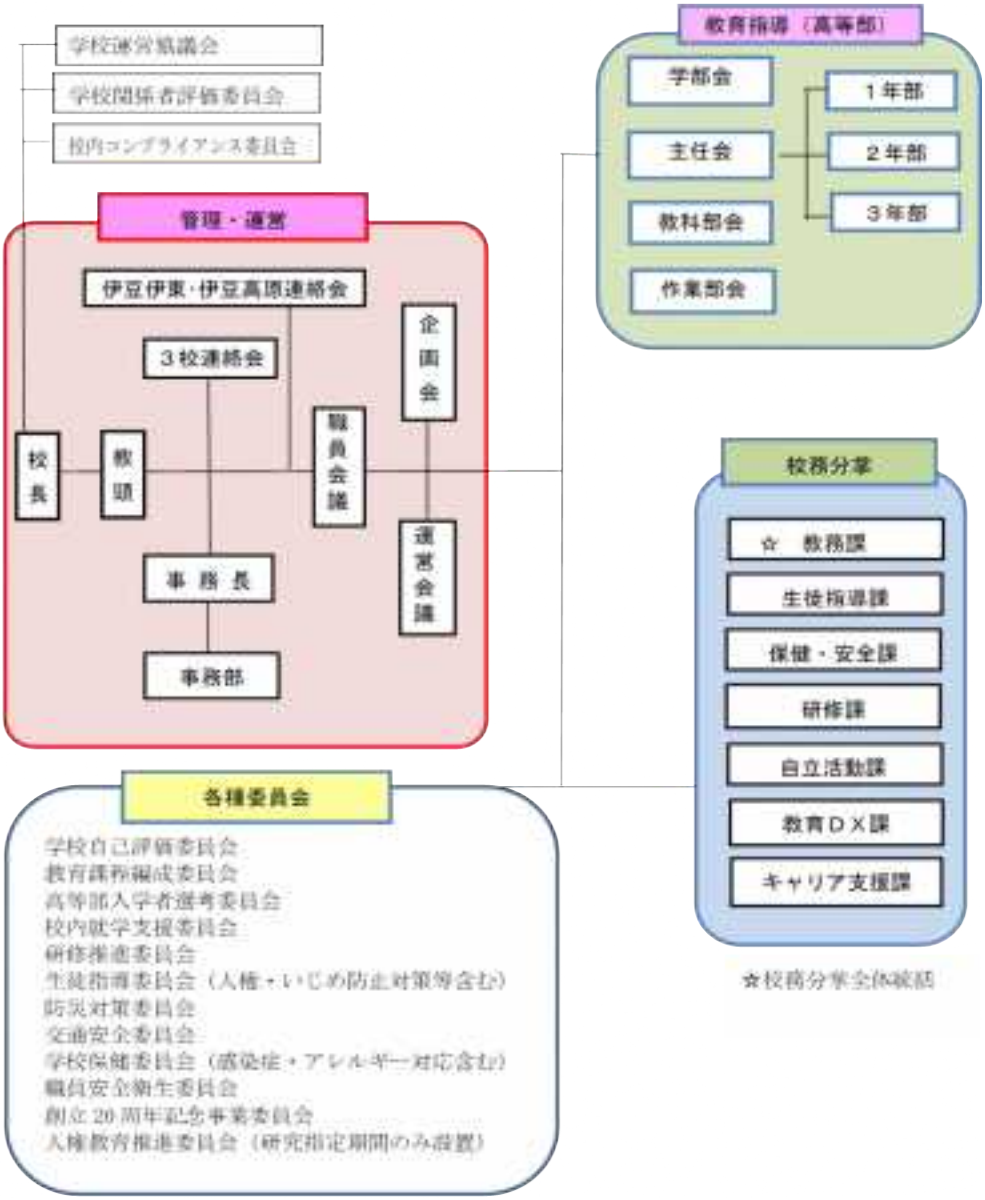
事務事業の概要（伊豆高原分校）

1　概況

(1) 学校の沿革

平成14. 4. 1　静岡県立東部養護学校伊東分校高等部として静岡県立伊東城ケ崎高等学校内に開設
平成14. 4. 10　開設式及び入学式挙行
平成18. 4. 1　静岡県立東部養護学校伊豆高原分校として静岡県立伊東高等学校城ケ崎分校内に開校
平成18. 4. 10　開校式及び入学式挙行
平成20. 4. 1　静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校と校名変更
平成28. 12. 15　創立10周年記念式典挙行
令和 5. 4. 1　併置校の静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校の再編整備に伴い移転、静岡県立伊豆伊東高等学校内併設となる

(2) 組織図



2　目指す学校像

(1)　教育目標「学びあい、わかりあい、高めあう人」

【知】社会生活に必要な力を身に付け、自分らしく生きる力

【体】健康で生き生きと活動する力

【徳】他の人を思いやったり、物事に感動したりする豊かな心

教育目標の具現化に向けて、①安心と信頼＜守る＞　②豊かな学び＜育む＞　③地域とのつながり＜つなぐ＞　④やりがい＜高める＞　を学校づくりの４つの視点に掲げ、社会で生き生きと働き、互いを認め合い、豊かな感性をもって、生活の質を高められる学校づくりを目指す。

(2)　目標具現化の柱（中期的目標）

ア〈守る〉安全で安心な教育環境づくり

(ｱ) 学校の安全体制の強化

(ｲ) 人権を尊重した教育

イ〈育む〉確かな学力や豊かに生きる力の育成

(ｱ) 学びの充実

(ｲ) キャリア教育の充実

ウ〈つなぐ〉学びと生活を支えるための連携づくり

(ｱ) 校内校外における連携体制の構築と情報共有

(ｲ)「共生・共育」の推進

エ〈高める〉わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

(ｱ) 働きがいのある学校づくり

3　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和７年度の取組目標への評価及び成果と課題

本年度の取組（**重点目標はゴシック体で記載**）

ア　＜守る＞　安全で安心な教育環境づく

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学校の安全体制の強化				
	安全･安心で健康に過ごすための知識･技能の獲得	・研修を生徒の指導、支援に役立てたと感じる教職員90%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ100% ・マニュアルで災害時の自分の動きが把握できた。 教職員ｱﾝｹｰﾄ100%	・緊急体制訓練等を４回実施した。（１回は伊豆伊東高校との初の合同訓練） ・防災学習を４回実施した。 外部講師による職員研修を２回（防災・生徒支援）実施した。	B	○訓練や研修等は計画通り実施することができた。緊急対応や日頃の安全に関する知識や意識を高めることができた。 ○竜巻被害直後の防災学習や避難生活体験などを学年ごとに実施したことで、より具体的に災害時の行動について考えることができた。 ○研修により休みがちな生徒への配慮や指導について共通理解を図ることができた。

		・災害時どのように行動すればよいか理解できた生徒80%以上 生徒ｱﾝｹｰﾄ74%			●生徒の健康や安全に関する指導や配慮が適切に行われていると考える保護者95%だったが、災害時の行動についての生徒理解度は前期より低下し74%だった。繰り返し学習をしていきたい。 ●急な引き渡し対応時に情報伝達の困難さがあった。適切な情報伝達意識を全員が持てる組織としたい。 ●来年度も今年度並みの計画回数の中でいろいろな場面を想定した訓練をしていきたい。
イ	人権を尊重した教育				
	互いを認め合い人権を尊重した教育の推進	・友達を思いやる行動ができた生徒90%以上 生徒ｹｰﾄ　79% ・生徒の人権を意識して指導支援ができた教員100% 教職員ｱﾝｹｰﾄ92% 保護者ｱﾝｹｰﾄ90%	・生徒集会で生徒会企画のレクリエーションを２回実施した。 ・ほっこりエールタイムを設定し生徒が指名した教員と個別相談を実施した。 人権の生徒アンケートを２回実施した。 ・外部講師による職員人権研修を１回実施した。	B	○生徒集会では、全員が楽しめるレクリエーションを生徒会役員が考え実施した。シッティングバレーなどのチーム戦では仲間と協力しながら楽しむ様子が多く見られた。 ○ほっこりエールタイムで生徒が話したいことを指名した教員と個別に話せる時間を設けた。これまで聞けなかった相談内容に応じることができたり、生徒の現状を早めに把握できたりすることができた。 ●生徒アンケートでは、友達を思いやる行動ができた生徒は前期結果76%からは増加した。具体的な行動について意識できるようにしたい。 ●どこまでが人権で、社会性を育てる指導かがわかりにくい面がある。人権チェックの実施を定期的に行いたい。

イ　＜育む＞　確かな学力や豊かに生きる力の育成

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学びの充実				
	生徒が主体的に学べる授業づくり	・授業が分かると答えた生徒90%以上 生徒ｱﾝｹｰﾄ90% 保護者ｱﾝｹｰﾄ98% ・ICT を効果的に活用できたと感じる教員80%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ100%	・作業学習を窓口に主体的・対話的な生徒の姿を目指した研修を実施した。 ・授業カードや指導案の書式改善(評価規準明記)を行った。 ・外部講師による助言を受けた授業研究２回実施した。 ・保護者、生徒アンケートを２回実施した。	A	○外部講師による指導助言により、授業改善意識が高まった。 ○参観日を年間７回(うち２回は通常の授業)実施した。保護者アンケートでは高評価を得た。 ●授業づくりについて引き続き研修し、今後は教科目標及び評価をより意識して行っていきたい。 ○作業学習では生産物の在庫管理や野菜の生育記録などにICTを活用することで、生徒が作業計画を考えやすくなった。

					○校外学習等の事前事後の調べ学習では、各学年とも ICT を活用した。映像や画像等を表示することで生徒が分かりやすく学ぶことができた。 ●職員の ICT 研修は継続して実施し、生徒の学びの支援となるよう活用できるようにしたい。
イ	キャリア教育の充実				
	自分らしく生きるための自立と社会参加を目指した進路指導	・家庭と連携しながら実習を実施し、進路決定に向けた関係機関との連携ができたと考える教員80%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ92%	・２、３年生の職場実習を年２回実施した。 ・１年生の集中作業､職場見学、職場短期実習を実施した。 ・２年生が東部キャリア教育スクールに参加した。 ・実習希望調査、実習後面談及び校内ケース会議を実施した。 ・３年生の移行支援会議を年２回実施した。 ・職員事業所見学を実施した。	A	○面談、校内ケース会議などを通じて保護者や生徒の意見を確認し尊重しながら実習先や進路先にむけた進路指導をすることができた。 ○関係機関との連携により、移行支援会議やケース会議の実施ができた。 ○他校生徒と一緒に学べたことで、生徒と教員の進路学習への意識が高まった。将来働きたい生徒の割合が上昇した。 ●保護者の要望と生徒の実態に隔たりがあるケースについては、早めに進路の方向性を個別に共有できるよう対応したい。
ウ	特別支援教育の専門性の向上				
	自分の課題、目標に沿った研修の実施	・研修を教育活動に生かせた教員90%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ100％ ・自分の課題のテーマを研修できた教員90%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ96％	・教員が授業担当をしている作業学習で校内研修を実施した。 ・初任者研修及び新任者研修を実施した。 ・夏季職員研修を７回実施した。 ・外部研修の報告や情報を全体に周知できた。	A	○各作業班の活動では生徒の主体的な姿、対話的な姿が多く見られるようになった。 ○初任者研修を内容によって新任者や希望者も一緒に受けられるようにしたことで基本研修の充実に繋がった。 ○他校へ提供する研修資料や他校の研究発表の資料を校内で周知することで職員の視野が広がった。 ●生徒指導上の対応力は、今後もケースごとに情報共有しながら職員全体で対応力を高めたい。

ウ　＜つなぐ＞　学びと生活を支えるための連携づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	校内における連携体制の構築と情報共有				
	途切れのない支援体の構築	・今後の対応方法について学年部会、ケース会議等を踏まえ、学部、学年で情報共有することができ	・入学希望者のうち欠席の多い生徒を対象に３日間の体験入学を実施した。 ・校内ケース会議を６回実施した。	A	○入学希望者が３日間登校から下校時間までの体験入学をすることで学校生活のイメージを持つことができ、中学校での進路指導につながった。 ○関係機関との連携により、より

		たと感じる教員80%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ96％	・外部機関が参加したケース会議を２回実施した。		具体的な対応方法を確認することができた。 ●欠席の多い生徒や個別対応が必要な生徒については、毎週末に行っている生徒の情報共有を引き続き継続していきたい。
イ	センター的取組の充実				
	情報共有と情報発信	・支援内容、要請事項を校内で共有、発信できた 教職員ｱﾝｹｰﾄ92％	・生徒の支援内容等の情報共有や発信を年２回実施した。 ・毎週生徒の情報共有や発信を終礼で実施した。 ・コーディネーター担当が外部の教育相談10件と地域支援９回を実施し報告した。	B	○教職員で生徒の支援内容等を確認することで、基本的な状況を把握し協力し合うことができた。 ●進路相談の参加者の本校への理解(入学資格や教育課程について)が不十分な傾向があった。中学校の進路指導への効果的な支援ができるとよい。
ウ	「共生・共育」の充実				
	併設校、地域との共生･共育の推進	・今後の共生･共育に期待がもてると答えた教員90%以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ84％	・各作業班で共生共育を意識した取り組みを実施した。 ・伊豆伊東高校と交流授業を実施した。 ・保育園での読み聞かせ活動を実施した。	B	○工芸班がいで湯っこ市場で製品販売を実施した。 園芸班が伊豆伊東高校生に花壇アンケートを実施した。また生徒会と芝生アート共同制作活動を実施した。 木工班が保育園にベンチを寄贈した。 エコワーク班が伊豆伊東高生や放課後デイサービス事業所職員にアンケート調査を実施した。 陶芸班がシャボテン公園などの受注作業を実施し、地域での共生意識が高まった。 ○伊豆伊東高生と体育で授業交流を実施した。両校の生徒が楽しめるレクリエーションスポーツを考え、授業で実践し、感想を伝え合い理解が深まった。 ○２年生の国語では近隣２か所の保育園に読み聞かせ活動を実施し、幼児への理解が深まった。 ●更に伊豆伊東高校との交流機会を作りたい。(ビジネス、アート、スポーツ科の授業へ生徒の授業参加など)

エ　＜高める＞　わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**充実した業務ができる職場環境の構築**	・生徒に向き合う時間が十分確保できた教職員90％以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ100％ ・ICTを公務に活用できた教職員70％以上 教職員ｱﾝｹｰﾄ89％ ・ホームページの更新を行った教職員100％ 教職員ｱﾝｹｰﾄ84％	・会議や面談期間を計画的に設定して実施した。 ・研修や教え合いにより、ICT機器の準備操作や業務分担を実施した。	A	○計画的に会議や面談期間が実施できたこと、生徒支援の情報共有ができていることで、教員間で連携して生徒指導や分担業務に従事できた。 ○ICT機器の操作やホームページ、COCOOの掲載の仕方等を情報課を中心に職員間で教え合い経験者が徐々に増えて協力し合える雰囲気が高まってきている。ホームページの更新回数は昨年の５倍以上。 ●来年度は書類作成について、デジタルプラットフォーム等新しいフォームへの移行を適切に行っていきたい。
イ	不祥事根絶	・不祥事を身近なこととと意識して不祥事ゼロを目指した教職員100％ 教職員アンケート	・県内不祥事の公表を周知し、注意喚起を実施した。 ・ヒヤリハット事例を職員に周知し、注意喚起をした。 ・不祥事根絶事例研修を４回実施した。	A	○事例対応についてのグループワークでの意見交換が活発に行われ、自分事として意識し、教育公務員としての行動意識が高まった。 ●来年度も継続して不祥事やヒヤリハットの定期的な周知や研修を実施し、意識を高めたい。

(2) 令和８年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア　＜守る＞　安全で安心な教育環境づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	学校の安全体制の強化		
	命を守る行動力の育成と体制の強化	・命を守る行動を考える授業、訓練の実施 ・危機管理マニュアルの共有と見直し。 ・支援方法の研修の実施 ・生徒が相談しやすい環境の整備	・自分の身の守り方を学んだ生徒90％以上 ・生徒の安全を守る対応がわかり行動できる教職員90％以上
イ	人権を尊重した教育		
	互いを認め合い人権を尊重した教育の推進	・人権教育年間指導計画に基づいた指導の充実	・人権意識や自尊感情が高まった生徒80％以上 ・人権教育年間指導計画を遂行できた教員90％以上

イ　＜育む＞　確かな学力や豊かに生きる力の育成

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	学びの充実		
	学習目標、評価を確かな学びにつなげる授業づくり	・学習指導要領に基づき、目標と評価をより関連づけた授業実践 ・生徒が学びやすいICTを活用した授業実践	・生徒の実態と学習指導要領に沿った授業の目標設定及び評価が行えた教員90％以上
イ	キャリア教育の充実		
	卒業後の生活を見通した指導の充実	・各学年の段階に応じた職場実習や進路指導の充実 ・将来の自立に向けて個別のニーズに合わせた情報提供と情報共有	・生徒が自分の課題を認識し達成できるよう指導できた教員90％以上 ・職場実習や進路指導が卒業後の生活力につながっていると思える保護者90％以上

ウ　＜つなぐ＞　学びと生活を支えるための連携づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	校内における連携体制の構築と情報共有		
	保護者､関係機関とのよりよい連携体制の構築	・学校や生徒の取組をお便りやホームページで発信する機会を増やす。 ・分かりやすい学校案内等の資料作成と活用および情報共有	・学校の取組や必要な情報が伝わり理解が得られた保護者や関係機関90％以上
イ	「共生・共育」の推進		
	併設校､地域との共生共育の推進	・伊豆伊東高校や地域との交流活動の企画、実施	・伊豆伊東高生との関わりや地域とのつながりおよび貢献を実感できた生徒80％以上

エ　＜高める＞　わかりあい高めあう働きやすい環境づくり

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	働きがいのある学校づくり		
	充実した業務ができる職場環境の構築	・提案資料の事前配布や掲示板活用の推進 ・心理的安全性が確保された職場環境の充実	・他と協働して計画的に業務遂行ができた教職員90％以上

4　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和7年度	安全・安心で健康に過ごすための知識・技能の獲得 ・併設校との合同避難訓練実施	・グラウンドへの初めての一斉避難訓練の予定だったが、雨天のため昨年度同様体育館への避難となった。避難経路の工夫により混乱なく集合し点呼できた。一か所への避難は一定時間かかるため、今後の避難場所や方法について課題となった。また、地震避難訓練の際の避難場所として、耐震性は確保されているため、生徒を安全に把握できる避難場所として建物内避難の検討をしたい。
	生徒が主体的に学べる授業づくり ・生徒の学習意欲を喚起する問いの設定	・作業学習を窓口に環境設定や活動設定、教材教具、教員の関わりについて検討し、生徒が分かりやすく行動しやすい学習環境となり、主体的な姿が増えた。作業製品の販売先や販売機会の新規開拓にも取り組み、地域と繋がりながら、今後もよりやりがいの持てる学習を設定していきたい。
	併設校、地域との共生・共育の推進 ・文化祭、体育祭行事の合同参加での実施 ・併設校スポーツ科との体育交流授業実施	・文化祭、体育祭は合同参加の行事として、それぞれの代表者が司会を交代して進行したり、ステージ発表し合ったり、同じ競技を行ったりと相互理解を深めることができた。 ・併設校スポーツ科生徒が計画した本校生徒が楽しめるルール球技を一緒に行うことで、相互理解が深まった。 ・より計画的、継続的な学習設定により充実した学習としたい。
令和8年度	互いを認めあい人権を尊重した教育の推進 ・人権教育年間指導計画に基づいた授業実践（一人一授業カード作成）	・人権教育について２年間の研究指定を受け、研修課、生徒指導課、学部と連携しながら職員全体で意識を高めた研修に取り組めている。現行の人権教育年間指導計画を受けて、各教科・領域での横断的に捉えた人権教育の授業カードを一人一授業分作成し、よりよい授業の在り方を探る。
	卒業後の生活を見通した指導の充実 ・段階に応じた進路指導と個別に合った情報提供	・将来の自立に向けて個別にあった情報提供をしながら、課題について面談や実習等で確認することで、より主体的に進路選択ができる場面が増える。
	併設校、地域との共生・共育の推進 ・伊豆伊東高生や地域のとの関りが持てる交流の実施	・体育祭では、初めて部活動対抗リレーに安全面に配慮してもらいながら伊豆高原分校の選抜チームが出場した。本校生徒の理解推進につながった。 ・併設校のスポーツ類型生徒が計画した本校生徒が楽しめるルール球技を今年も体育の授業として継続実施できた。 ・双方の目標は異なっても、教科学習として継続して実施できる交流の設定が増えるとよい。

5　教職員について（伊豆高原分校）

(1)　異動状況　　（単位：人）

職名／区分	本務職員															臨時・会計年度任用職員								
	教育職員							行政職員						小計								小計	計
	校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員		教諭（任期付・臨時）	養護教諭（任期付）	主事（臨時）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員／非常勤労務職員			
転出				4										4	3	1			1		5	9
退職														0	1						1	1
昇任									1	▲ 1				0							0	0
転入				2										2							0	2
新任														0		1					1	1
差引増減	0	0	0	▲ 2	0	0	0	0	1	▲ 1	0	0	0	▲ 2	▲ 4	0	0	0	▲ 1	0	▲ 5	▲ 7

(2) 現員数

ア　職員の配置状況　　（単位：人）

本務職員														臨時・会計年度任用職員							
教育職員							行政職員						小計								計
校長	副校長	教頭	教諭	再任用教諭	養護教諭	栄養教諭	事務長	主査	主任	主事	技能長	主任技能員		教諭（任期付／臨時）	養護教諭（任期付）	主事（臨時）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員／非常勤労務職員	小計	
0	0	1	20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	22	2	1	0	0	0	1	4	26

イ　職員の年齢　（令和８年７月31日現在）

年　齢	人　員	摘　要
20歳未満	0　人	
20歳以上30歳未満	2　人	
30歳以上40歳未満	6　人	
40歳以上50歳未満	5　人	
50歳以上56歳未満	5　人	
56歳以上61歳未満	3　人	
61歳以上	1　人	うち再任用０人
計	22　人	平均年齢44歳１月

(3) 健康管理について

ア　取り組みの状況

育児休業中の職員を除き、教職員全員が、生活習慣病健診・結核健診・人間ドック・脳ドック・指定年齢検診のいずれかを受診し、疾病の早期発見と健康保持に努めることができた。再検査の指示があった者は速やかに受診した。職員衛生委員会では、教職員の健康についての話題が出され、気になる教職員は、管理職、部主事、養護教諭が声を掛けたり、相談に乗ったりなどの対応をした。監査対象期間中に長期間（１か月以上）お休みした教職員は２人で、1人は家庭での足のケガによる入院・手術・療養(65日)を経て４月から復帰した。もう1名は適応障害等により療養(129日)したが、職場復帰訓練を経て３月中旬に復帰し、現在の勤務状況は良好である。

イ　健康管理状況

(ｱ)　前年度受診状況

区　分	内　容
受診状況	受診者数　24人 職員数　24人
受診率	100％
県平均受診率	100％

a 未受診の理由

該当なし

(ｲ)　本年度在籍者の健康管理区分結果

健　康　管　理　区　分			人数(人)
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要　治　療	
B２		要経過観察	
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要　治　療	
C２		要経過観察	
D１	平常の勤務でよい。	要　治　療	4　（4）
D２		要経過観察	4　（4）
D３		医 療 不 要	14　(14)
区 分 者 計			22　(22)
未 区 分 者 数			0
合　　計			22

a　管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

該当なし

b 未区分の理由

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

□□□□□□

□□□□□□　□人

□□□□□□　□人

(4) 教職員の研修について

ア　令和７年度

(ｱ)校内研修

研修目標
研修テーマ 主体的・対話的な生徒の姿を目指して～ つながり合って学ぶ作業学習 ～
研修内容
・各作業班における主体的・対話的な生徒の姿(身につけたい力)を明確化 ・各作業班における授業実践（具体的支援を整理し蓄積) ・授業実践により育まれた生徒の変化や有効な支援の情報共有と活用 ・班長会議の効果的な運営
成果と課題
本研修テーマでの３年目のまとめの研修として、地域に本校の作業製品について知ってもらう機会を意識し、授業実践では、「問いや課題をもたせる」授業づくりに取り組んだ。昨年度までは教員の指示を受けて活動していた生徒が、その日の活動や役割を自分たちで考える姿が見られるようになってきた。また、自分の役割に自信と誇りをもって作業に取り組む姿も増えてきた。工芸班は単独班での地域での販売会を実施し、顧客をより意識した製品づくりにつなげた。エコワーク班は、身近な放課後等デイサービス職員に製品使用の感想を聞き、製品づくりに取り入れた。農園芸班は花壇ついて併設高校生にアンケートをとり意見を取り入れた。どの作業班も顧客や相手をより意識することを通して、主体的で対話的な活動が高まった。今後も生徒一人一人が役割をもって、社会とつながり、自己有用感を持てる作業学習の充実を図っていきたい。

(ｲ)専門性向上のための研修

研修内容
・授業づくり(作業学習)研修　講師：沼津特別支援学校田方分校　岡山昌義先生 ・講演会「休みがちな生徒への教育的配慮について」講師：静岡大学 村上広美先生 ・ｵﾝﾗｲﾝ講演会「知的障害のある生徒の『性の権利』を尊重した教育・支援について」 講師：京都教育大学　総合教育臨床センター　門下祐子先生 ・保護者対応等に関する学習会　講師：弁護士 小杉真由先生 ・すぐに役立つ「知的障害のある子どもたちのための授業づくり」講師：室野先生
成果と課題
・他の高等部分校である田方分校の取組みを紹介してもらいながら、本校の作業学習について確認できたことで、良い点や不明瞭な点が具体的になり、授業づくりのプロセスや意図、配慮事項などが明確になった。 ・休みがちな生徒への対応について、生徒の行動理解や教育的配慮を含めた対応について、全教員で学び情報共有することができた。担当だけでなく職員全体で対応協力できるようになった。 ・性教育を人権教育として捉え、人権教育の基本的な知識等を確認した上で、性教育の指導方法例を知ることができ、本校での性教育について考える機会となった。 ・生徒対応および保護者対応についての過年度の困難事例を取り上げ、教員として、学校としての注意すべき点を具体的に情報共有できた。 ・授業づくりの基本である実態把握の方法、支援の方法などを校内のベテラン教員を講師に学習会を行ったことで、より具体的な生徒のイメージを持ちながらわかりやすく確認ができた。 ・生徒理解、保護者対応については今後も対応力向上のために学べる機会を設定しいきたい。

イ　令和８年度

(ｱ)校内研修

研修目標
研修テーマ 自他を尊重して行動する生徒の姿を目指して ～ 人権教育年間指導計画を受けての授業実践 ～
研修内容
２年間の研修としての１年目の内容 ・現行の人権教育年間指導計画を受けて、各教科・領域での横断的に捉えた人権教育の授業カード一人一授業分を人権の目標等を記載して作成し、授業の在り方を探る。 ・学習指導要領に基づいた目標等と評価を関連付けた授業実践

(ｲ)専門性向上のための研修

研修内容
・講演会「人権の尊重と生徒理解・保護者対応」講師：静岡大学　渡邊昇司先生 ・講演会「心理的な安定に課題のある生徒たちに寄り添った支援について 講師：常葉大学　赤塚めぐみ先生 ・学習会「組織で守る、現場で活きる～保護者対応の基本と技術～」 講師：室野亜美先生

6 防災対策について

(1) 令和７年度

指導目標
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。
取組内容
・教育活動中の災害を想定した訓練を行う。 ・最新の災害の状況から、マニュアルの見直しを図る。 ・併設校と連携した防災対策をする。
成果と課題
・併設校との初めての体育館への合同避難訓練を行った。一斉に避難することで、それにかかる時間や相互の避難状況を知ることができた。 ・併設校と初めて危機管理マニュアルの交換を行うことができた。相互の対応方法について知り、今後、連携や見直しが必要な点について相談しながら関係性を強めたい。 ・防災教育推進のための連絡会議を開校後初めて開催した。地域の理解をすすめながら併設校との実効性のある体制整備となるよう、マニュアルの確認を進めたい。

(2) 令和８年度

指導目標
災害時や緊急時に迅速に対応でき、実効性のある体制の整備に努める。
取組内容
・命を守る行動を考える授業、訓練の実施。発災時初動訓練や避難訓練をより実効性のある方法を工夫するとともに事前事後学習を行い落ちついて行動できるようにする。 ・最新の災害の状況から、マニュアルの見直しを図り、共有する。 ・併設校とマニュアル等の情報交換を行うとともに、緊急時の対応について職員研修交流等の実施を行うなど連携した対策が行えるようにする。

7 学校開放について

併置校管理のため、本校としての学校開放はしていない。

□□□□□□

事業の根拠法令調

項　　目	根拠法令
1　学校教育に関すること	教育基本法（第１条、第２条） 学校教育法（第１条、第２条、第３条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第５条） 学校給食法（第４条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第３条） 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 いじめ防止対策推進法 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律
2　学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 学校図書館法（第３条、第４条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第２条、第３条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 静岡県情報公開条例施行規則

□□□□□□

学校施設の概要

1　面積及び所有区分

（1）本校　　（令和８年７月 31 日現在）

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地		17,864.42	17,864.42					
内訳	校舎敷地	14,974.42	14,974.42					
	運動場敷地	2,890.00	2,890.00					
校　舎		建 5,988.72 延 8,425.07	建 5,988.72 延 8,425.07					
体育館		建 601.31 延 549.31	建 601.31 延 549.31					
その他建物		建 198.36 延 106.26	建 198.36 延 106.26					
職員住宅		4 戸	4 戸					

（2）伊東分校　　（令和８年７月 31 日現在）

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地		7,327.00			7,327.00			旧伊東市立旭小学校一部借受
内訳	校舎敷地	7,327.00			7,327.00			
	運動場敷地							
校　舎		建 1,950.00 延 4,840.00			建 1,950.00 延 4,840.00			旧伊東市立旭小学校一部借受
体育館								
その他建物		建 18.00 延 18.00			建 18.00 延 18.00			旧伊東市立旭小学校一部借受

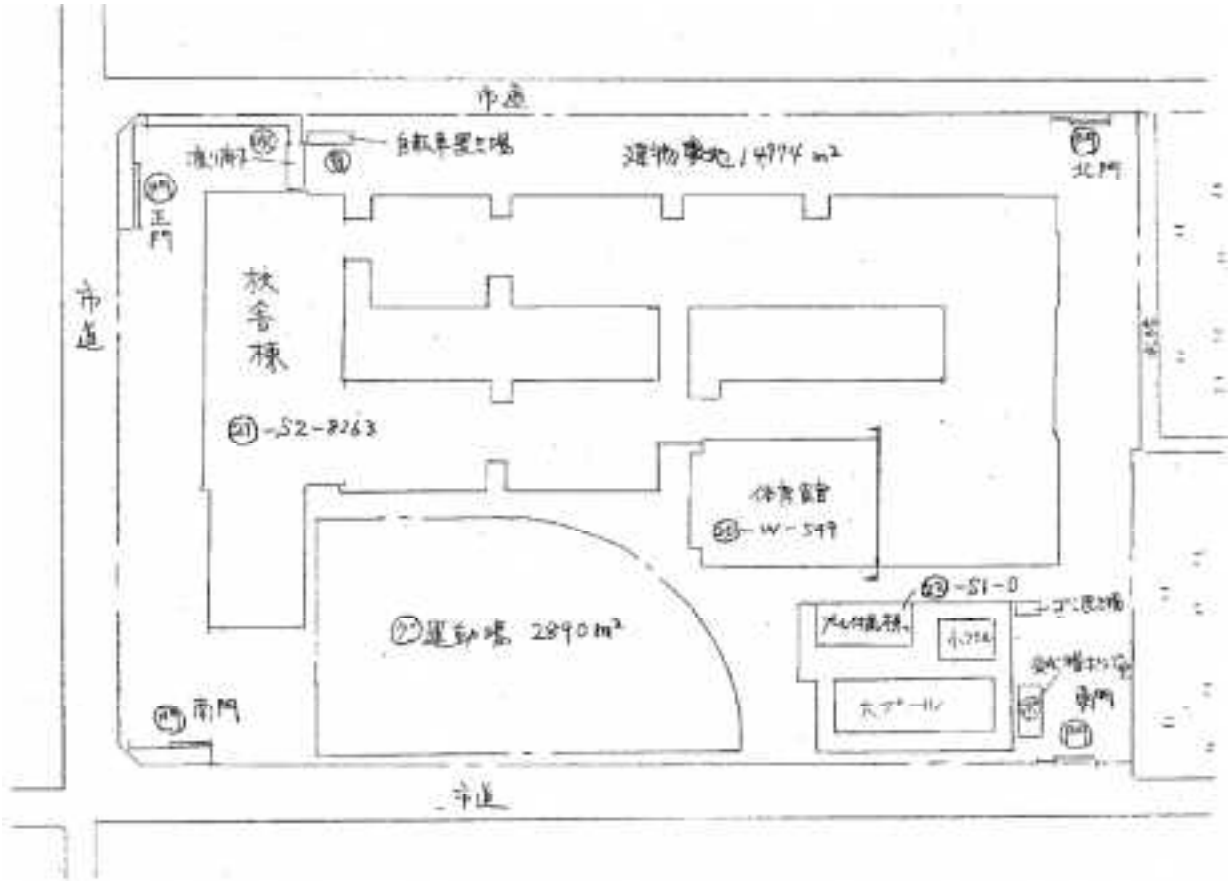
（3）伊豆高原分校　　（令和８年７月 31 日現在）

区分		面積㎡	所有内訳					摘要
			県有㎡	国有㎡	市町村有㎡	後援会有㎡	民有㎡	
学校敷地								
内訳	校舎敷地							
	運動場敷地							
校　舎		建 749.92 延 1,070.63	建 749.92 延 1,070.63					伊豆伊東高校一部使用承認
体育館		建 563.41 延 563.41	建 563.41 延 563.41					伊豆伊東高校一部使用承認
その他建物		建 30.80 延 30.80	建 30.80 延 30.80					伊豆伊東高校一部使用承認

2　配置・規模等

(1)　本校　　伊豆の国市寺家246番地１

ア　校舎等の配置図

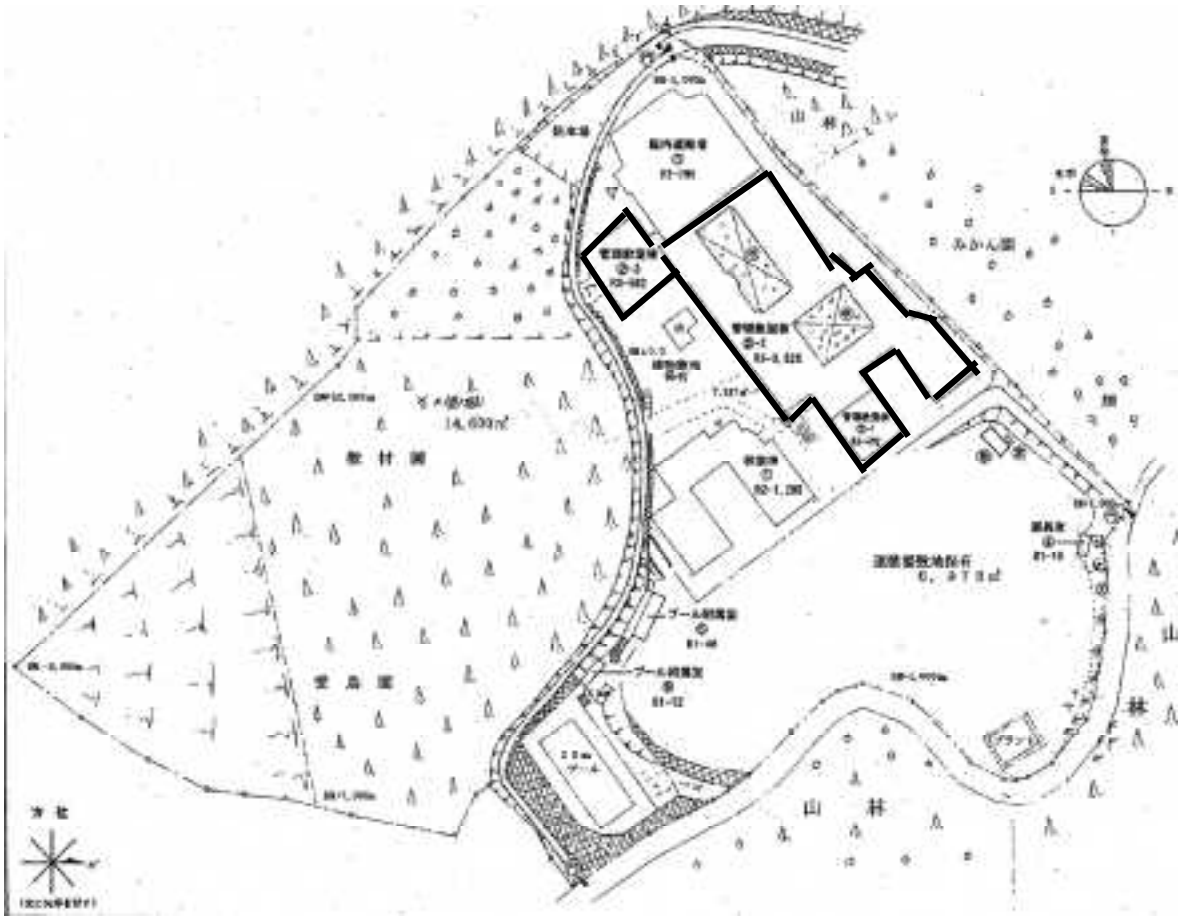


イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区　分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	17,864.42㎡	8,425.07㎡	2,890.00㎡
県平均	18,843.25㎡	6,361.36㎡	5,244.43㎡

(2)　伊東分校　　伊東市岡1270－１

ア　校舎等の配置図

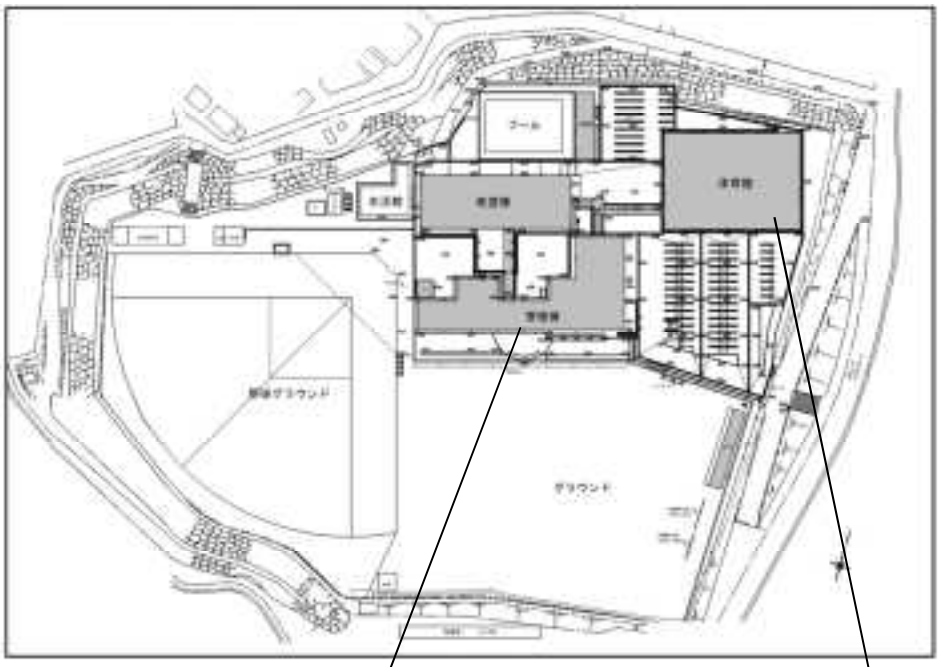


イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

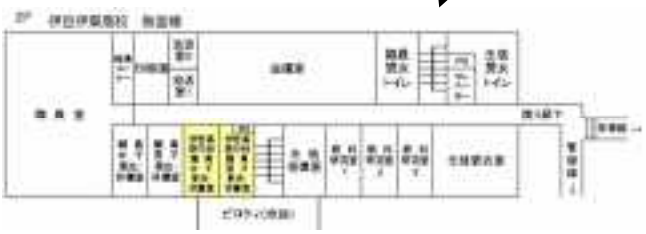
区　分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	7,327.00㎡	4,840.00㎡	0㎡
県平均			

(3)　伊豆高原分校　　伊東市吉田748－１

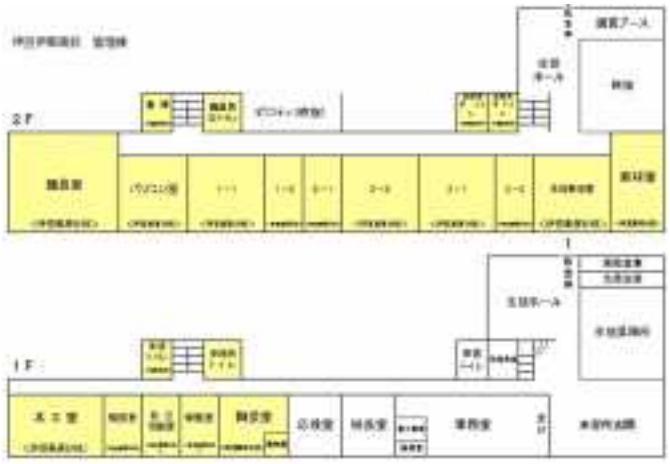
ア　校舎等の配置図



伊豆伊東高等学校
配置図







イ 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区　分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	0㎡	1,070.63㎡	0㎡
県平均			

□□□□□□

在 籍 生 徒 調

1　本　　校

（令和８年7月31日現在）

学年	学部区分	小学部 男子	小学部 女子	小学部 計	中学部 男子	中学部 女子	中学部 計	高等部（普通科） 定員	高等部（普通科） 男子	高等部（普通科） 女子	高等部（普通科） 計	合計 男子	合計 女子	合計 計
1年	入学者	6（1）	4（　）	10（1）	5（　）	3（　）	8（　）	18	3（　）	3（1）	6（1）	14（1）	10（1）	24（2）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	現在	6（1）	4（　）	10（1）	5（　）	3（　）	8（　）		3（　）	3（1）	6（1）	14（1）	10（1）	24（2）
2年	入学者	4（　）	4（　）	8（　）	5（　）	4（1）	9（1）	15	5（1）	2（　）	7（1）	14（1）	10（1）	24（2）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		1（1）	（　）	1（1）	1（1）	（　）	1（1）
	2年時当初	4（　）	4（　）	8（　）	5（　）	4（1）	9（1）		4（　）	2（　）	6（　）	13（　）	10（1）	23（1）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	現在	4（　）	4（　）	8（　）	5（　）	4（1）	9（1）		4（　）	2（　）	6（　）	13（　）	10（1）	23（1）
3年	入学者	（　）	3（　）	3（　）	6（　）	2（　）	8（　）	24	1（　）	7（　）	8（　）	7（　）	12（　）	19（　）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	1（　）	1（　）	（　）	1（　）	1（　）
	2年時当初	（　）	3（　）	3（　）	6（　）	2（　）	8（　）		1（　）	6（　）	7（　）	7（　）	11（　）	18（　）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	3年時当初	（　）	3（　）	3（　）	6（　）	2（　）	8（　）		1（　）	6（　）	7（　）	7（　）	11（　）	18（　）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	現在	（　）	3（　）	3（　）	6（　）	2（　）	8（　）		1（　）	6（　）	7（　）	7（　）	11（　）	18（　）
4年	入学者	3（　）	1（　）	4（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	3（　）	1（　）	4（　）
	増加	2（1）	（　）	2（1）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	2（1）	（　）	2（1）
	減少	2（1）	（　）	2（1）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	2（1）	（　）	2（1）
	2年時当初	3（　）	1（　）	4（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	3（　）	1（　）	4（　）
	増加	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	減少	1（　）	（　）	1（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	1（　）	（　）	1（　）
	3年時当初	2（　）	1（　）	3（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	2（　）	1（　）	3（　）
	増加	1（　）	1（　）	2（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	1（　）	1（　）	2（　）
	減少	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）		（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	4年時当初	3（　）	2（　）	5（　）								3（　）	2（　）	5（　）
	増加	1（1）	（　）	1（1）								1（1）	（　）	1（1）
	減少	）	（　）	（　）								（　）	（　）	（　）
	現在	4（1）	2（　）	6（1）								4（1）	2（　）	6（1）

学年	学部区分	小学部			中学部			高等部普通科				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
5年	入学者	4（ ）	2（ ）	6（ ）								4（ ）	2（ ）	6（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	2年時当初	4（ ）	2（ ）	6（ ）								4（ ）	2（ ）	6（ ）
	増加	（ ）	1（1）	1（1）								（ ）	1（1）	1（1）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	3年時当初	4（ ）	3（1）	7（1）								4（ ）	3（1）	7（1）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	1（1）	1（1）								（ ）	1（1）	1（1）
	4年時当初	4（ ）	2（ ）	6（ ）								4（ ）	2（ ）	6（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	5年時当初	4（ ）	2（ ）	6（ ）								4（ ）	2（ ）	6（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	現在	4（ ）	2（ ）	6（ ）								4（ ）	2（ ）	6（ ）
6年	入学者	1（ ）	1（ ）	2（ ）								1（ ）	1（ ）	2（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	2年時当初	1（ ）	1（ ）	2（ ）								1（ ）	1（ ）	2（ ）
	増加	（ ）	1（1）	1（1）								（ ）	1（1）	1（1）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	3年時当初	1（ ）	2（1）	3（1）								1（ ）	2（1）	3（1）
	増加	（ ）	1（1）	1（1）								（ ）	1（1）	1（1）
	減少	（ ）	1（1）	1（1）								（ ）	1（1）	1（1）
	4年時当初	1（ ）	2（1）	3（1）								1（ ）	2（1）	3（1）
	増加	1（1）	（ ）	1（1）								1（1）	（ ）	1（1）
	減少	1（1）	1（1）	2（2）								1（1）	1（1）	2（2）
	5年時当初	1（ ）	1（ ）	2（ ）								1（ ）	1（ ）	2（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	6年時当初	1（ ）	1（ ）	2（ ）								1（ ）	1（ ）	2（ ）
	増加	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	減少	（ ）	（ ）	（ ）								（ ）	（ ）	（ ）
	現在	1（ ）	1（ ）	2（ ）								1（ ）	1（ ）	2（ ）
合計		19（2）	16（ ）	35（2）	16（ ）	9（1）	25（1）		8（ ）	11（1）	19（1）	43（2）	36（2）	79（4）

（ ）は内数で訪問教育該当者

2　伊東分校　　（令和８年７月31日現在）

学年	学部区分	小学部			中学部			高等部(普通科)				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者	6	2	8	3	4	7					9	6	15
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	現在	6	2	8	3	4	7					9	6	15
2年	入学者	6	0	6	2	2	4					8	2	10
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	2年時当初	6	0	6	2	2	4					8	2	10
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	現在	6	0	6	2	2	4					8	2	10
3年	入学者	2	0	2	4	1	5					6	1	7
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	2年時当初	2	0	2	4	1	5					6	1	7
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	3年時当初	2	0	2	4	1	5					6	1	7
	増加			0			0					0	0	0
	減少			0			0					0	0	0
	現在	2	0	2	4	1	5					6	1	7
4年	入学者	2	1	3								2	1	3
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	2年時当初	2	1	3								2	1	3
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	3年時当初	2	1	3								2	1	3
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	4年時当初	2	1	3								2	1	3
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	現在	2	1	3								2	1	3

学年	学部 / 区分	小学部 男子	小学部 女子	小学部 計	中学部 男子	中学部 女子	中学部 計	高等部(普通科) 定員	高等部(普通科) 男子	高等部(普通科) 女子	高等部(普通科) 計	合計 男子	合計 女子	合計 計
5年	入学者	5	1	6								5	1	6
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	2年時当初	5	1	6								5	1	6
	増加			0								0	0	0
	減少	1		1								1	0	1
	3年時当初	4	1	5								4	1	5
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	4年時当初	4	1	5								4	1	5
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	5年時当初	4	1	5								4	1	5
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	現在	4	1	5								4	1	5
6年	入学者	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	2年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	3年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	4年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	5年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	6年時当初	3	1	4								3	1	4
	増加			0								0	0	0
	減少			0								0	0	0
	現在	3	1	4								3	1	4
合計		23	5	28	9	7	16	0	0	0	0	32	12	44

3　伊豆高原分校

（令和８年７月31日現在）

学年	学部 / 区分	小学部			中学部			高等部(普通科)				合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	入学者							27	13	4	17	13	4	17
	増加													
	減少													
	現在								13	4	17	13	4	17
2年	入学者							21	5	6	11	5	6	11
	増加													
	減少													
	2年時当初								5	6	11	5	6	11
	増加													
	減少													
	現在								5	6	11	5	6	11
3年	入学者							24	11	7	18	11	7	18
	増加													
	減少													
	2年時当初								11	7	18	11	7	18
	増加													
	減少													
	3年時当初								11	7	18	11	7	18
	増加													
	減少													
	現在								11	7	18	11	7	18
合計								72	29	17	46	29	17	46

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

1　本　　校

区　　分		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
学　科　別		高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科
生徒定員（A）		21	24	15	18	15
募集者数（B）		21	24	15	18	15
志願者数	男	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)
	女	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)	3 (0)
	計（C）	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)
受検者数	男	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)
	女	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)	3 (0)
	計（D）	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)
合格者数	男	6 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)
	女	6 (0)	3 (0)	6 (0)	2 (0)	3 (0)
	計（E）	12 (0)	11 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)
志願倍率(C)/(B)		0.57	0.46	0.47	0.39	0.40
受検倍率(D)/(B)		0.57	0.46	0.47	0.39	0.40
入学者数	男	6	8	1	5	3
	女	6	3	7	2	3
	計（F）	12	11	8	7	6
充足率(F)/(A)		0.57	0.46	0.53	0.39	0.40

2　伊豆高原分校

区　　分		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
学　科　別		高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科	高　等　部 普　通　科
生徒定員（A）		21	24	24	21	27
募集者数（B）		21	24	24	21	27
志願者数	男	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)	13 (0)
	女	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)	4 (0)
	計（C）	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)	17 (0)
受検者数	男	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)	13 (0)
	女	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)	4 (0)
	計（D）	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)	17 (0)
合格者数	男	11 (0)	10 (0)	11 (0)	6 (0)	13 (0)
	女	3 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)	4 (0)
	計（E）	14 (0)	15 (0)	18 (0)	12 (0)	17 (0)
志願倍率(C)/(B)		0.67	0.63	0.75	0.57	0.63
受検倍率(D)/(B)		0.67	0.63	0.75	0.57	0.63
入学者数	男	11	10	11	5	13
	女	3	5	7	6	4
	計（F）	14	15	18	11	17
充足率(F)/(A)		0.67	0.63	0.75	0.52	0.63

□□□□□□

卒　業　生　の　動　向　調

1　本　　校

区　　分		中　学　部	高　等　部		合　　計
			本　　科	専　攻　科	
高等学校（本科）	全　日　制				
	定　時　制				
	通　信　制				
特別支援学校高等部		5			5
その他高等学校等					
大　学　等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就職					
上記以外※		1	11		12
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		6	11		17

（再掲）「上記以外※」のうち、福祉施設等入所、通所者

区　　分	中　学　部	高　等　部		合　　計
		本　　科	専　攻　科	
児童福祉施設				
障害者支援施設		11		11
（うち就労系支援事業利用者）				
医療機関				
計		11		11

2　伊東分校

区　分		中学部	高等部		合　計
			本　科	専攻科	
高等学校（本科）	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部		6			6
その他高等学校等					0
大学等	大学（学部）				0
	短期大学（本科）				0
	大学・短大の通信教育学部等				0
	その他の大学等				0
特別支援学校高等部専攻科					0
専修学校（専門課程）					0
専修学校（一般課程）・各種学校					0
公共職業能力開発施設等					0
就職					0
上記以外※					0
不詳・死亡					0
計（卒業者総数）		6		0	6

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区　分	中学部	高等部		合　計
		本　科	専攻科	
児童福祉施設				0
障害者支援施設				0
（うち就労系支援事業所利用者）				0
医療機関				0
計	0		0	0

3　伊豆高原分校

区　分		中学部	高等部		合　計
			本　科	専攻科	
高等学校（本科）	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部					0
その他高等学校等					0
大学等	大学（学部）				0
	短期大学（本科）				0
	大学・短大の通信教育学部等				0
	その他の大学等				0
特別支援学校高等部専攻科					0
専修学校（専門課程）					0
専修学校（一般課程）・各種学校					0
公共職業能力開発施設等					0
就職			1		1
上記以外※			13		13
不詳・死亡					0
計（卒業者総数）		0	14	0	14

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区　分	中学部	高等部		合　計
		本　科	専攻科	
児童福祉施設				0
障害者支援施設		11		11
（うち就労系支援事業所利用者）		3		3
医療機関				0
計	0	11	0	11

□□□□□□

生 徒 の 状 況

1 本　校

(1) 生徒の居住地域及び通学方法

ア 居住地

(令和8年7月31日現在)(単位:人)

市 町 名	沼 津 市	三 島 市	伊豆の国市	伊 豆 市	伊 東 市	熱 海 市	裾 野 市
児童・生徒数	21	20	12	3	2	1	1
構成比%	26.5	25.3	15.2	3.8	2.5	1.3	1.3

市 町 名	静岡市	御殿場市	函 南 町	清 水 町	長 泉 町	富士市	小山町	計
児童・生徒数	3	1	4	6	3	1	1	79
構成比%	3.8	1.3	5.0	7.6	3.8	1.3	1.3	100

イ 通学方法

(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区　　分	伊豆医療	訪問	スクールバス	電　　車	自家用車	徒　　歩	計
児童・生徒数	10	4	18	0	47	0	79
構成比%	12.6	5.1	22.8	0	59.5	0	100

※伊豆医療…伊豆医療福祉センター

ウ 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無

エ ヘルメット所持、着用率

(令和8年7月31日現在)(単位:人)

入学年度	令和６年度	令和７年度	令和8年度	合　計
自転車通学者数	0	0	0	0
ヘルメット所持者数	0	0	0	0

着用率・着用状況	

オ

(令和8年7月31日現在)(単位:人)

訪　問　教　員　等			市　　町	伊豆の国市	伊　豆　市	静　岡　市	小　山　町	計
小・中学部	教　　諭	2	小 学 部			1	1	2
	教諭(任・臨)		中 学 部		1			1
高 等 部	教　　諭	1	高 等 部	1				1
	教諭(任・臨)							
計		3	計	1	1	1	1	4

(2) 部(クラブ)の加入状況　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区　　分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数					
男子	1年				
	2年				
	3年				
	計				
	構成比%				
女子	1年				
	2年				
	3年				
	計				
	構成比%				
合計	(A+B)				
	構成比%				

該当なし

(3) 障害別児童生徒数

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小学部	単一障害		1					1	1
	重複障害								
	肢体重複	9	7	3	5	6	2	32	12
	合計	9	8	3	5	6	2	33	13
中学部	単一障害	2						2	1
	重複障害								
	肢体重複	6	8	8				22	8
	合計	8	8	8				24	9
高等部	単一障害	2		1				3	2
	重複障害								
	肢体重複	3	6	6				15	5
	合計	5	6	7				18	7
訪問小学部	単一障害				1			1	
	重複障害								
	肢体重複	1						1	
	合計	1			1			2	1
訪問中学部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複		1					1	
	合計		1					1	1
訪問高等部	単一障害								
	重複障害								
	肢体重複	1						1	1
	合計	1						1	1

(4) 起因疾患別児童生徒数

区分	脳性麻痺	脳外傷・後遺症	水痘症	その他の脳疾患	二分脊椎	その他の脊椎疾患	筋ジストロフィー	その他の筋疾患	骨系統疾患
小学部	6	1		4	2		1		1
中学部		1		10	1		1	2	1
高等部	2			11					
訪問				4					1
計	8	2		29	3		2	2	3

区分	代謝系疾患	心疾患	その他	計
小学部			17	32
中学部			7	23
高等部			5	18
訪問	1			6
計	1		29	79

2 伊東分校

(1)生徒の居住地域及び通学方法

ア 居 住 地　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

市 町 名	伊東市	熱海市	計
生 徒 数	33	11	44
構成比%	75.0	25.0	100

イ 通学方法　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分	スクールバス	バス	自家用車	徒歩	計
生 徒 数	25		19		44
構成比%	56.8	0.0	43.2	0.0	100

ウ 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無

エ ヘルメット所持、着用率　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

入学年度	令和６年度	令和７年度	令和8年度	合 計
自転車通学者数	0	0	0	0
ヘルメット所持者数	0	0	0	0

着用率・着用状況	

オ 訪問教育の状況　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

訪問教員等			市 町		計
高等部	教諭		高等部		
	教諭(任・臨)				
計			計		

該当なし

(2) 部(クラブ)の加入状況　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数					0
男子	1年				0
	2年				0
	3年				0
	計(A)	0	0	0	0
	構成比%				
女子	1年				
	2年				
	3年				
	計(B)				
	構成比%				
合計	(A+B)	0	0	0	0
	構成比%				

該当なし

(3) 障害別児童生徒数　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学級数
小学部	単一障害		1	1	2	2	1	7	5
	重複障害	8	5	1	1	3	3	21	8
	肢体重複							0	
	合 計	8	6	2	3	5	4	28	13
中学部	単一障害	4		4				8	2
	重複障害	3	4	1				8	4
	肢体重複							0	
	合 計	7	4	5				16	6

(4) 起因疾患別児童生徒数　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分	染色体異常	自閉症スペクトラム	その他	計
小学部	4	24	0	28
中学部	5	6	5	16
計	9	30	5	44

3 伊豆高原分校

(1)生徒の居住地域及び通学方法

ア 居 住 地　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

市 町 名	伊東市	熱海市	東伊豆町	河津町	計
生 徒 数	37	6	2	1	46
構 成 比 %	80.4	13.0	4.3	2.2	100

イ 通学方法　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分	電車	バス	自 家 用 車	徒歩	計
生 徒 数	8	11	20	7	46
構 成 比 %	17.4	23.9	43.5	15.2	100

ウ 自転車通学に係るルールや要件

ヘルメット所持要件	有	ヘルメット着用要件	有

エ ヘルメット所持、着用率　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

入学年度	令和６年度	令和７年度	令和8年度	合 計
自転車通学者数	0	0	0	0
ヘルメット所持者数	0	0	0	0

着用率・着用状況	

オ 訪問教育の状況　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

訪 問 教 員 等			市 町		計	
高 等 部	教諭		高 等 部			該当なし
	教諭(任・臨)					
計			計			

(2) 部(クラブ)の加入状況　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数					0	該当なし
男子	1年				0	
	2年				0	
	3年				0	
	計(A)	0	0	0	0	
	構成比%					
女子	1年					
	2年					
	3年					
	計(B)					
	構成比%					
合計	(A+B)	0	0	0	0	
	構成比%					

(3) 障害別児童生徒数　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	計	学級数
高等部	単一障害	17	9	14	40	5
	重複障害	0	0	3	3	1
	肢体重複	0	2	1	3	2
合 計		17	11	18	46	8

(4) 起因疾患別児童生徒数　　(令和8年7月31日現在)(単位:人)

区 分	精神遅滞	自閉症スペクトラム	ダウン症	ADHD	その他	計
高 等 部	15	14	5	6	6	46

□□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和８年度

（令和８年７月 31 日現在）

<table>
<tr><td></td><td colspan="4">主な生産品目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">８年度</td><td colspan="4">伊豆高原分校
＜手芸品・工作物＞コースター、ポーチ、ビーズストラップ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、ハンディモップ、アクリルたわし、アンブレラマーカー、メモ帳　外
＜農作物＞じゃがいも、人参、たまねぎ、野菜苗、花苗</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>119,250 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>△127,950 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">７年度</td><td colspan="4">伊豆高原分校
＜手芸品・工作物＞コースター、袋、ビーズストラップ、ポーチ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、ハンディモップ、アクリルたわし、アンブレラマーカー、メモ帳　外
＜農作物＞じゃがいも、ラディッシュ、小松菜、野菜苗、花苗、里芋、白菜、サラダゴボウ</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>247,200 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>78,050 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">６年度</td><td colspan="4">伊豆高原分校
＜手芸品・工作物＞コースター、袋、ビーズストラップ、ペン立て、ベンチ、鉢、皿、箸置き、ハンディモップ、アクリルたわし外
＜農作物＞じゃがいも、里芋、花苗</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>169,150 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>△31,950 円</td></tr>
</table>

□□□□□□

預 金 調

（令和8年7月31日現在）

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘　要
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874897	東部特別支援学校 資金前渡者 佐々木 雅則	0	給与、資金前渡 継続的資金前渡
スルガ銀行 伊豆長岡支店	無利息型 普通預金	2874898	(自振口)東部特別支援学校 資金前渡者 校長 佐々木 雅則	0	保険料、光熱水費 電話料、後納郵便料
静岡銀行 韮山支店	無利息型 普通預金	158108	静岡県立東部特別支援学校 奨励費代理受領者 佐々木 雅則	0	就学奨励費
残　高　合　計				0	

□□□□□□

材 料 品 受 払 調

（令和８年７月31日現在）

（本校）
該当なし

（伊東分校）
該当なし

（伊豆高原分校）

区分 / 品名	令和７年度						令和８年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
木材	(本) 0	(円) 0	(本) 131	(円) 68,038	(本) 131	(円) 68,038	(本) 0	(円) 0	(本) 20	(円) 10,960	(本) 20	(円) 10,960	(本) 0	(円) 0	2×4
釉薬	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 1	(円) 12,045	(個) 1	(円) 12,045	(個) 0	(円) 0	5ℓ
鋳込泥	(個) 0	(円) 0	(個) 1	(円) 17,534	(個) 1	(円) 17,534	(個) 0	(円) 0	(個) 2	(円) 24,744	(個) 2	(円) 24,744	(個) 0	(円) 0	10ℓ 18ℓ
チャック	(個) 0	(円) 0	(個) 68	(円) 9,702	(個) 68	(円) 9,702	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	
布	(枚) 0	(円) 0	(枚) 301	(円) 37,719	(枚) 301	(円) 37,719	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	(枚) 0	(円) 0	
ミシン糸	(本) 0	(円) 0	(本) 20	(円) 3,520	(本) 20	(円) 3,520	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	
ひも	(本) 0	(円) 0	(本) 45	(円) 6,880	(本) 45	(円) 6,880	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	(本) 0	(円) 0	
ビーズ	(箱) 0	(円) 0	(箱) 63	(円) 22,308	(箱) 63	(円) 22,308	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	(箱) 0	(円) 0	
毛糸	(個) 0	(円) 0	(個) 191	(円) 55,230	(個) 191	(円) 55,230	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	
色上質紙	(個) 0	(円) 0	(個) 32	(円) 49,632	(個) 32	(円) 49,632	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	500枚入
製本テープ	(個) 0	(円) 0	(個) 20	(円) 11,280	(個) 20	(円) 11,280	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	
インクカートリッジ	(個) 0	(円) 0	(個) 18	(円) 38,112	(個) 18	(円) 38,112	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	(個) 0	(円) 0	
計		0		319,955		319,955		0		47,749		47,749		0	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節　　名	会計	款	項	目	執行済額　　(円)		
					令和6年度	令和7年度	左のうち、令和6年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		217,800	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		34,879,658	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		31,449,308	
計					71,096,432	66,546,766	0
(14)工事請負費						0	
計					0	0	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		2,281,750	
計					1,949,508	2,281,750	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		77,250	
計					139,890	77,250	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年7月31日現在)

節　　名	会計	款	項	目	執 行 済 額　　(円)	
						うち、令和7年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	52,800	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	7,685,117	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	7,836,444	0
計					15,574,361	0
(14)工事請負費					0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	363,550	0
計					363,550	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	52,400	0
計					52,400	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

（令和7年度）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	（事務関係）		円	円	円	円				円		
										(9,292,800)		
									7.5.30	774,400		
									7.6.30	774,400		
									7.7.31	774,400		
									7.8.29	774,400		
									7.9.30	774,400	本校通学送迎スクールバス2台運転管理	
1	車両管理業務	㈱KSドライバーサポート	33,601,700	27,878,400	0	27,878,400	一般	6.4.1～9.3.31	7.10.31	774,400		6長期
									7.11.28	774,400		
									7.12.25	774,400		
									8.1.30	774,400		
									8.2.27	774,400		
									8.3.31	774,400		
									8.4.30	774,400		
									小計	9,292,800		
										(19,296,948)		
									7.5.30	1,608,079		
									7.6.30	1,608,079		
									7.7.31	1,608,079		
									7.8.29	1,608,079		
									7.9.30	1,608,079		
2	通学バス輸送業務	㈱東海バス伊東営業所	86,836,266	57,890,844	0	57,890,844	一般	6.4.1～9.3.31	7.10.31	1,608,079	伊東分校通学送迎バス2台運行	6長期
									7.11.28	1,608,079		
									7.12.25	1,608,079		
									8.1.30	1,608,079		
									8.2.27	1,608,079		
									8.3.31	1,608,079		
									8.4.28	1,608,079		
									小計	19,296,948		
										(28,731,945)		
									7.5.30	1,197,163		
									7.6.30	1,197,163		
									7.7.31	1,197,163		
									7.8.29	1,197,163		
									7.9.30	1,197,163		
3	給食調理業務	㈱レクトン	46,789,226	43,097,901	0	43,097,901	一般	5.4.1～8.3.31	7.10.31	1,197,163	伊東分校給食調理、配膳、片付け	5長期
									7.11.28	1,197,163		
									7.12.25	1,197,163		
									8.1.30	1,197,163		
									8.2.27	1,197,163		
									8.3.31	1,197,163		
									8.4.28	1,197,163		
									小計	14,365,956		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
4	給食調理業務	シダックス大新東ヒューマンサービス㈱中部第二支店	65,340,000	49,460,400	23,056	49,483,456	一般	5.8.1 ～ 8.7.31		(27,478,000)	本校給食調理、配膳、片付け	5長期
									7.5.30	1,375,341		
									7.6.30	1,375,341		
									7.7.31	1,375,341		
									7.8.29	1,375,341		
									7.9.30	1,375,341		
									7.10.31	1,375,341		
									7.11.28	1,375,341		
									7.12.25	1,375,341		
									8.1.30	1,375,341		
									8.2.27	1,375,341		
									8.3.31	1,375,341		
									8.4.30	1,375,341		
									小計	16,504,092		
5	エレベータ保守点検業務	三菱電機ビルソリューションズ㈱横浜支社西湘支店	831,600	831,600	0	831,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30	69,300	本校エレベーター保守点検	随契 1号 (少額)
									7.6.30	69,300		
									7.7.31	69,300		
									7.8.29	69,300		
									7.9.30	69,300		
									7.10.31	69,300		
									7.11.28	69,300		
									7.12.25	69,300		
									8.1.30	69,300		
									8.2.27	69,300		
									8.3.31	69,300		
									8.4.30	69,300		
									小計	831,600		
6	エレベータ保守点検業務	ジャパンエレベーターサービス神奈川㈱	44,880	36,960	0	36,960	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30	3,080	伊東分校エレベーター保守点検	随契 1号 (少額)
									7.6.30	3,080		
									7.7.31	3,080		
									7.8.29	3,080		
									7.9.30	3,080		
									7.10.31	3,080		
									7.11.28	3,080		
									7.12.25	3,080		
									8.1.30	3,080		
									8.2.27	3,080		
									8.3.31	3,080		
									8.4.30	3,080		
									小計	36,960		
7	建築物環境衛生管理業務	東海ビル保善㈱	3,643,970	3,534,630	0	3,534,630	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.7.31	205,810	本校校舎建築物環境衛生管理	一般
									7.10.31	2,398,330		
									8.1.30	321,530		
									8.4.30	608,960		
									小計	3,534,630		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
8	車いす用階段昇降機保守点検業務	広洋産業㈱	897,600	897,600	0	897,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 8.4.30 小計	63,800 63,800 63,800 63,800 195,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 897,600	伊東分校車いす用階段昇降機保守点検	随契 1号 (少額)
9	防鼠防虫業務	㈱メイジ・ピーシーサービス	253,000	242,000	0	242,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.10.31 8.4.30 小計	121,000 121,000 242,000	伊東分校防鼠防虫	随契 1号 (少額)
10	可燃物収集運搬業務	㈱フジタ	435,600	435,600	0	435,600	随契	7.4.3～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 8.4.30 小計	35,200 39,600 35,200 44,000 22,000 39,600 39,600 35,200 35,200 35,200 35,200 39,600 435,600	伊東地区2校の可燃物収集運搬業務	随契 1号 (少額) 伊豆伊東
11	産廃収集運搬・処分業務	㈱東部処理	79,200	79,200	0	79,200	随契	7.6.27 ～ 7.12.26	8.1.21	79,200	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契 1号 (少額)
12	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業㈱	85,800	85,800	0	85,800	随契	7.7.14 ～ 7.9.30	7.9.5	85,800	本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)
13	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス㈱	8,250	8,250	0	8,250	随契	7.7.16 ～ 7.9.30	7.9.5	5,500	本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
14	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理㈱	86,350	86,350	0	86,350	随契	7.7.22 ～ 7.9.30	7.9.26	86,350	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)
15	グリストラップ産廃処分業務	㈱エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	7.7.22 ～ 7 .9.30	7.9.26	6,160	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
16	産廃収集運搬・処分業務	㈱東部処理	88,000	88,000	0	88,000	随契	8.1.14 ～ 8.3.31	8.4.30	88,000	本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契 1号 (少額)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
17	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理㈱	86,350	86,350	0	86,350	随契	8.2.25 ～ 8.3.31	8.4.30	86,350	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)
18	グリストラップ産廃処分業務	㈱エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	8.2.25 ～ 8.3.31	8.4.30	7,700	伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
19	産廃収集運搬・処分業務	㈱フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	8.2.25 ～ 8.3.31	8.4.23	99,000	伊東分校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契 1号 (少額)
20	産廃収集運搬・処分業務	㈱ホクセイ	32,120	32,120	0	32,120	随契	8.3.2 ～ 8.3.31	8.4.21	32,120	伊東分校廃蛍光管収集運搬及び処分	随契 1号 (少額)
21	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業㈱	53,900	53,900	0	53,900	随契	8.3.11 ～ 8.3.31	8.4.30	53,900	本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)
22	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス㈱	8,250	8,250	0	8,250	随契	8.3.11 ～ 8.3.31	8.4.30	5,500	本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
23	GHP保守点検業務	伊東ガス㈱	473,000	473,000	0	473,000	随契	8.3.24 ～ 8.3.31	8.4.30	473,000	伊東分校ガスヒートポンプエアコン保守点検	随契 1号 (少額)
	事務関係計	23件	239,789,462	185,421,555	23,056	185,444,611				66,546,766		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
			円	円	円	円				円		
参考1	警備業務	セコム㈱		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			三島田方地区11校の機械警備	三島北高等学校
参考2	警備業務	セコム㈱		4,950,000	0	4,950,000		6.10.1 ～ 11.9.30			伊東熱海地区4校の機械警備	(分校)伊豆伊東高等学校
参考3	消防設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱		8,032,024	0	8,032,024		7.4.1 ～ 8.3.31			三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	三島北高等学校
参考4	自家用電気工作物保安業務	㈱静岡ケイテクノ		1,359,600	0	1,359,600		7.4.1 ～ 8.3.31			三島田方地区4校の自家用電気工作物保安管理	韮山高等学校
参考5	可燃物収集運搬業務	㈱マエダ美化		501,490	0	501,490		7.4.4 ～ 8.3.31			三島田方地区4校の可燃物収集運搬業務	韮山高等学校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産㈱		191,400	0	191,400		7.4.7 ～ 7.10.17			三島田方地区7校のプール浄化装置保守	伊豆総合高等学校
参考7	消防設備等保守点検業務	㈱藤興産		1,681,020	0	1,681,020		7.4.1 ～ 8.3.31			伊東熱海地区3校の消防用設備等の機能維持	(分校)伊豆伊東高等学校
参考8	自家用電気工作物保安業務	渡邊電気管理事務所		1,003,200	0	1,003,200		7.4.1 ～ 8.3.31			伊東地区2校の自家用電気工作物保安管理	(分校)伊豆伊東高等学校
参考9	定期点検業務	㈲コーセイ産業		2,749,340	0	2,749,340		7.8.1 ～ 7.11.28			下田熱海地区県立学校の建築基準法第12条定期点検	(分校)伊豆伊東高等学校
参考10	定期点検業務	㈲一級建築士事務所アドス設計室		1,452,000	0	1,452,000		7.11.4 ～ 8.2.27			三島田方地区県立学校の建築基準法第12条定期点検	伊豆中央高等学校
	計	10件		41,885,074	0	41,885,074						

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

（令和8年度）
（令和8年7月31日現在）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	(事務関係)		円	円	円	円				円		
1	車両管理業務	㈱KSドライバーサポート	33,601,700	27,878,400	0	27,878,400	一般	6.4.1 ～ 9.3.31		(18,585,600)		
									8.5.29	774,400	本校通学送迎スクールバス2台運転管理	6長期
									8.6.30	774,400		
									8.7.31	774,400		
									小計	2,323,200		
2	通学バス輸送業務	㈱東海バス伊東営業所	86,836,266	57,890,844	0	57,890,844	一般	6.4.1 ～ 9.3.31		(38,593,896)		
									8.5.29	1,608,079	伊東分校通学送迎バス2台運行	6長期
									8.6.30	1,608,079		
									8.7.31	1,608,079		
									小計	4,824,237		
3	給食調理業務	シダックス大新東ヒューマンサービス㈱中部第二支店	65,340,000	49,460,400	23,056	49,483,456	一般	5.8.1 ～ 8.7.31		(43,982,092)		
									8.5.29	1,375,341	本校給食調理、配膳、片付け	5長期
									8.6.30	1,375,341		
									8.7.31	1,375,341		
									小計	4,126,023		
4	給食調理業務	㈱マルヨ	25,488,419	19,789,000	0	19,789,000	一般	8.4.1 ～ 9.7.31	8.5.29	1,236,807	伊東分校給食調理、配膳、片付け	8長期
									8.6.30	1,236,807		
									8.7.31	1,236,807		
									小計	3,710,421		
5	エレベータ保守点検業務	ジャパンエレベーターサービス神奈川㈱	831,600	237,600	0	237,600	随契	8.4.1 ～ 9.3.31	8.5.29	19,800	本校エレベーター保守点検	随契 1号 (少額)
									8.6.30	19,800		
									8.7.31	19,800		
									小計	59,400		
6	エレベータ保守点検業務	ジャパンエレベーターサービス神奈川㈱	44,880	36,960	0	36,960	随契	8.4.1 ～ 9.3.31	8.5.29	3,080	伊東分校エレベーター保守点検	随契 1号 (少額)
									8.6.30	3,080		
									8.7.31	3,080		
									小計	9,240		
7	建築物環境衛生管理業務	東海ビル保善㈱	4,025,150	3,904,340	0	3,904,340	一般	8.4.1 ～ 9.3.31	8.7.31	224,840	本校校舎建築物環境衛生管理	一般
									小計	224,840		
8	車いす用階段昇降機保守点検業務	広洋産業㈱	897,600	897,600	0	897,600	随契	8.4.1 ～ 9.3.31	8.5.29	63,800	伊東分校車いす用階段昇降機保守点検	随契 1号 (少額)
									8.6.30	63,800		
									8.7.31	63,800		
									小計	191,400		
9	防鼠防虫業務	㈱帝装化成沼津営業所	297,000	253,000	0	253,000	随契	8.4.1 ～ 9.3.31			伊東分校防鼠防虫	随契 1号 (少額)
10	可燃物収集運搬業務	㈱フジタ	418,000	418,000	0	418,000	随契	8.4.6 ～ 9.3.31	8.5.29	30,800	伊東地区2校の可燃物収集運搬業務	随契 1号 (少額) 伊豆伊東
									8.6.30	35,200		
									8.7.31	39,600		
									小計	105,600		
11	グリストラップ産廃収集運搬業務	伊豆総業㈱	85,800	85,800	0	85,800	随契	8.6.2 ～ 8.9.30			本校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
12	グリストラップ産廃処分業務	クリーンサービス㈱	9,900	9,900	0	9,900	随契	8.6.2 ～ 8.9.30			本校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
13	産廃収集運搬・処分業務	㈱東部処理	88,000	88,000	0	88,000	随契	8.6.12 ～ 8.12.28			本校産業廃棄物収集運搬及び処分	随契 1号 (少額)
14	グリストラップ産廃収集運搬業務	三友水処理㈱	86,350	86,350	0	86,350	随契	8.7.7 ～ 8.9.30			伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物収集運搬	随契 1号 (少額)
15	グリストラップ産廃処分業務	㈱エイコウサービス	7,700	7,700	0	7,700	随契	8.7.7 ～ 8.9.30			伊東分校グリストラップ配管産業廃棄物処分	随契 1号 (少額)
16	給食調理業務	シダックス大新東ヒューマンサービス㈱中部第二支店	73,090,514	59,439,600	0	59,439,600	一般	8.8.1 ～ 11.7.31			本校給食調理、配膳、片付け	8長期
	事務関係計	16件	291,148,879	220,483,494	23,056	220,506,550				15,574,361		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
			円	円	円	円				円		
参考1	警備業務	セコム㈱		19,965,000	0	19,965,000		6.10.1 ～ 11.9.30			三島田方地区11校の機械警備	三島北高等学校
参考2	警備業務	セコム㈱		4,950,000	0	4,950,000		6.10.1 ～ 11.9.30			伊東熱海地区4校の機械警備	(分校)伊豆伊東高等学校
参考3	消防設備等保守点検業務	伊豆防災機器㈱		8,637,024	0	8,637,024		8.4.1 ～ 9.3.31			三島田方地区10校の消防用設備等の機能維持	三島北高等学校
参考4	自家用電気工作物保安業務	㈱静岡ケイテクノ		1,663,200	0	1,663,200		8.4.1 ～ 9.3.31			三島田方地区4校の自家用電気工作物保安管理	韮山高等学校
参考5	可燃物収集運搬業務	㈱マエダ美化		496,320	0	496,320		8.4.3 ～ 9.3.30			三島田方地区4校の可燃物収集運搬業務	韮山高等学校
参考6	プール浄化装置保守点検業務	東伸興産㈱		594,000	0	594,000		8.4.6 ～ 8.10.16			三島田方地区6校のプール浄化装置保守	伊豆総合高等学校
参考7	消防設備等保守点検業務	㈱藤興産		1,681,020	0	1,681,020		8.4.1 ～ 9.3.31			伊東熱海地区3校の消防用設備等の機能維持	(分校)伊豆伊東高等学校
参考8	自家用電気工作物保安業務	渡邊電気管理事務所		1,003,200	0	1,003,200		8.4.1 ～ 9.3.31			伊東地区2校の自家用電気工作物保安管理	(分校)伊豆伊東高等学校
参考9	定期点検業務	合同会社石橋剛設計事務所		2,200,000	0	2,200,000		8.7.31 ～ 8.11.30			下田熱海地区県立学校の建築基準法第12条定期点検	(分校)伊豆伊東高等学校
	計	9件		41,189,764	0	41,189,764						

□□□□□□

負 担 金 支 出 調

（令和7年度）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	中部地区肢体不自由教育研究大会参加費	中部地区肢体不自由研究協議会	開催要項	研究大会 参加費1名分	円 3,000	7.6.24
2	全国肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会	規　約	団体負担金 年会費1校分	4,500	7.6.26
3	伊豆中央地区安全運転管理協会会費	伊豆中央地区安全運転管理協会	会　則	安全運転管理者 1人分	20,900	7.6.27
4	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	会　則	団体負担金 年会費1校分	15,000	7.7.14
5	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	会　則	特別管理産業廃棄物管理責任者1人分	13,750	7.7.14
6	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規　約	団体負担金 年会費1校分	6,000	7.7.15
7	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	3,000	7.7.18
8	全国肢体不自由教育研究協議会参加費	全国肢体不自由教育研究協議会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	6,000	7.9.18
9	安全運転管理者等講習会手数料	静岡県公安委員会	会　則	安全運転管理者 1人分	5,100	7.11.13
計		9件			77,250	

（令和8年度）
（令和8年7月31日現在）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	伊豆中央地区安全運転管理協会会費	伊豆中央地区安全運転管理協会	会　則	安全運転管理者 1人分	円 20,900	8.6.17
2	中部地区肢体不自由教育研究大会参加費	中部地区肢体不自由研究協議会	開催要項	研究大会 参加費1名分	3,000	8.6.22
3	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会	規　約	団体負担金 年会費1校分	6,000	8.7.10
4	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会	会　則	団体負担金 年会費1校分	15,000	8.7.21
5	全国肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会	規　約	団体負担金 年会費1校分	4,500	8.7.27
6	全国肢体不自由教育教頭研究協議会参加費	全国肢体不自由教育教頭会	開催要項	研究協議会 参加費1校分	3,000	8.7.27
計		6件			52,400	

□□□□□□

建　　築　　工　　事　　調

令和７年度　該当なし

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			契約締結方法
					当初額	変更増減額	計	

受注者	着手 完成(予定) 年　月　日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘　　要

令和８年度
参考

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額			契約締結方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	令和８年度［第３８-Ｚ２４１０-０１号］東部特別支援学校伊東分校高圧ケーブル更新工事	伊東市岡地内	11,220,000	11,110,000	－	11,110,000	指名

受注者	着手 完成(予定) 年　月　日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘　　要
三星電機株式会社	R8.7.16 R9.3.24	0	高圧ケーブル更新　一式	—	本庁経理設備課

□□□□□□

公　有　財　産　調

（令和７年度）

区分	令和７年３月31日現在		増		減		令和８年３月31日現在		摘要
	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	
行政財産		千円 3,008,032		千円 0		千円 125,896		千円 2,882,136	
土　地	17,864.42㎡	247,633					17,864.42㎡	247,633	
立木竹	408本	875			100本	197	308本	678	
建　物	6,788.39㎡ 9,080.64㎡	2,376,556				84,408	6,788.39㎡ 9,080.64㎡	2,292,148	
工作物	106個	382,968				41,291	106個	341,677	
普通財産		32,908		0		1,104		31,804	
土　地	491.37㎡	26,885					491.37㎡	26,885	
建　物	92.01㎡ 160.38㎡	6,023				1,104	92.01㎡ 160.38㎡	4,919	
工作物	3個	0					3個	0	
公有財産に準ずるもの		453.9						453.9	
電話加入権	7件	453.9					7件	453.9	

「令和８年度中増減なし」

□□□□□□

借　地　借　家　等　調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	区分	種　別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契　約期　間	所有者又は契約者氏名	用　途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	伊東市岡1270-1			㎡ 土地7,327.00	円	円 0	R5.4.1 ～ R10.3.31	伊東市	(伊東分校) 校舎敷地等
2	建物	事務所建	伊東市岡1270-1		RC造	建 1,968.00 延 4,858.00		0	R5.4.1 ～ R10.3.31	伊東市	(伊東分校) 普通教室等
3	建物	事務所建	伊東市吉田748-1		RC造 S造	建 1,313.33 延 1,634.04		0	R6.4.1 ～ R9.3.31	伊豆伊東高等学校	(伊豆高原分校) 普通教室等
4	建物	倉庫建	伊東市吉田748－1		S造	建 30.80 延 30.80		0	R6.9.1 ～ R9.3.31	伊豆伊東高等学校	(伊豆高原分校) 倉庫
	計					土地 7,327.00 建 3,312.13 延 6,522.84		0			

□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

（令和８年度）

（令和８年７月31日現在）

区　分	事業名又は契約名	内　　容	契約額	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借及び使用契約	電子複写機　４台 （契約日）7.4.1	円 3,245,220	円	円	円 649,044	円 649,044	円 649,044	円 649,044	円 649,044
	カラー印刷機賃貸借契約	カラー印刷機　１台 （契約日）6.2.14	3,603,600	60,060	720,720	720,720	720,720	720,720	660,660	
	本校給食調理（配缶・配膳）業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 （契約日）5.7.28	49,483,456	10,991,200	16,486,800	16,504,092	5,501,364			
	本校給食調理（配缶・配膳）業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 （契約日）8.6.29	59,439,600				13,239,600	19,800,000	19,800,000	6,600,000
	伊東分校給食調理（配缶・配膳）業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 （契約日）5.　4.1	43,097,901	14,365,989	14,365,956	14,365,956				
	伊東分校給食調理（配缶・配膳）業務委託契約	給食調理・配缶・配膳及び再調理 （契約日）8.　4.1	19,789,000				14,841,684	4,947,316		
	本校スクールバス運行管理業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 （契約日）6.　4.1	27,878,400		9,292,800	9,292,800	9,292,800			
	伊東分校通学バス輸送業務委託契約	通学の送迎及び校外活動の送迎 （契約日）6.　4.1	57,890,844		19,296,948	19,296,948	19,296,948			

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	伊豆の国市寺家246番1	学校用地	学校敷地	建物 3.82㎡ 土地 0.01㎡		円 0	R7.4.1 ～ R12.3.31	伊豆の国市長	防災無線半固定局及びアンテナ設置
合計								0			

□□□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	伊豆の国市小坂512-2	職員住宅	宅地	1本	1,500	円 1,500	R6.4.1 ～ R9.3.31	東京電力パワーグリッド㈱伊豆支社長	電気事業用電柱設置
合計								1,500			

□□□□□□

職員公舎管理状況調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	所在地	建築年月	構造	管理戸(室)数(A)	入居戸(室)数(B)	Bの内他事務所職員入居戸(室)数	空屋戸(室)数(A-B)	摘要
1	伊豆の国市小坂512－2	S59.3	ＲＣ２Ｆ１棟	4	0	0	4	
	計			4	0	0	4	

空家年月日　①　H20.10.1　②　H22.4.1　③　H31.2.1　④　R1.6.10　　計４戸

□□□□□□

主 要 備 品 調

（令和8年7月31日現在）

整理番号	区分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	加熱器具	スチームコンベクションオーブン	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	3,572,800
2	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	3,237,300
3	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	2,490,400
4	01-13	加熱器具	コンビオーブン	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,348,676
5	01-13	その他の厨房器具	真空冷却器	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,127,924
6	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハC3自動演奏付	年間20日 本校授業等に使用	平成9年3月	2,076,480
7	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	2,072,196
8	01-13	加熱器具	低輻射ガス回転釜	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	1,920,600
9	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器(一式)	毎日(年間200日) 本校パソコン教室パソコン処理	令和2年1月	1,744,270
10	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	1,624,700
11	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,545,912
12	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,447,956
13	01-13	加熱器具	ガス回転釜	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,421,928
14	01-04	金庫	耐火金庫 ｺｸﾖES-52MBF1	毎日(年間365日) 本校永年保存文書保管他	平成10年3月	1,252,230
15	01-99	その他の庁用器具	暗幕 W2.4*H2.8*2*9箇所	毎日(年間200日) 伊豆高原分校体育館で使用	令和5年3月	1,160,500
16	01-13	食品食器洗浄機	食缶消毒保管機	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,151,777
17	01-13	食品食器洗浄機	食缶等消毒保管機	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	1,065,420
18	10-99	その他の教育用器具	電気式陶芸窯 外寸　幅1120×奥行910	年間20日 伊豆高原分校作業学習に使用	平成30年10月	1,015,200
19	01-04	その他の収納保管庫	器具消毒保管機 1300×750×1900mm	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	932,800
20	01-13	冷蔵(凍)庫	牛乳用保冷庫 750×900×1970mm	年間184日 伊東分校給食調理作業に使用	令和5年8月	906,400
21	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫	年間194日 本校給食調理作業に使用	平成30年7月	884,790